

## 多文化共生の教育に関する研究（Ⅱ）

－小学校の社会科を中心に－

多文化共生の教育では、世界の国々の多様な文化を理解し尊重する態度や、世界の国々が相互に依存し合い、自己の生活と深く関わり合っていることを理解し、異なる文化をもつ人々とともに生きようとする資質や能力を育むことが大切である。

第一年次の研究では、「総合的な学習の時間」における学習活動モデルを構想し、提示した。本年度は、社会科の学習において多文化共生の教育を進めるための内容と方法を明らかにした。まず、多文化共生の視点からみた小学校社会科の授業の考え方を明らかにし、授業設計のあり方を示した。そのうえで、小学校第5学年と第6学年において授業の検証を行い、その有効性を検証した。

【キーワード】 社会科 多文化共生の教育 授業設計 つながりへの気づき

## 目 次

はじめに	1
I 本年度の研究のねらいと方法	1
II 多文化共生の視点からみた社会科の授業の構想	2
1 多文化共生の教育の捉え方	2
(1) バンクス、エクストランドによる提唱	2
(2) 日本における提唱	3
(3) 本研究における多文化共生の教育	4
2 多文化共生の視点からみた社会科の授業の考え方	4
(1) 子どもの世界情勢に対する意識の把握	4
(2) 授業の考え方	5
3 授業設計	6
(1) 「発展的な学習」の位置づけ	6
(2) 基本的な問題解決の過程	8
(3) 子どもの学習状況の評価	8
III 授業の実践	9
1 小学校第5学年社会科「世界とつながる食料生産」の実践	9
(1) 「世界とつながる食料生産」と新聞作り	9
(2) 単元目標と評価規準	10
(3) 学習計画の作成	11
(4) 学習の実際	12
2 小学校第6学年社会科「鎖国の中の日本と朝鮮」の実践	16
(1) 「鎖国の中の日本と朝鮮」と「堀江の街」	16
(2) 単元目標と評価規準	17
(3) 中単元の構成	18
(4) 小単元ごとの授業展開の作成	18
(5) 学習の実際	22
IV 考察—子どもの意識とその変容	27
1 社会科の学習と生活との関連	27
(1) 学習への意欲	27
(2) 生活に役立つ社会科の学習	27
2 つながりへの気づき	28
(1) 第5学年は食料問題からみたつながり	28
(2) 第6学年は習得した学びからみたつながり	29
3 自己の変容への気づき	31
V 研究のまとめと今後の課題	32
おわりに	32

## はじめに

大阪市においてはこれまで、「国際共生都市大阪」にふさわしい教育の充実に向け、「大阪市外国籍住民施策基本指針」「人権教育基本方針」「在日外国人教育基本方針」が策定されている。これら方針を具体化するには、大阪市立学校における子どもの教育環境の実情を把握し、人権問題にかかわる実態とそれを生み出している原因を明らかにすることが必要である。差別と偏見、排外意識は、依然として在日韓国・朝鮮人の子どもをはじめ、アジアや南米等からの帰国・来日等の子どもに向けられることが多くあり、早急に解決すべき課題である。

『大阪市教育センター研究紀要』第 151 号（2002）と第 159 号（2003）でも報告しているが、子どもの教育環境に関する意識調査（2001 年実施）では、外国籍の子どもの多数在籍校と少数在籍校において国名に対するイメージや本名で通学すること等について、子どもの意識に依然として違いがあることが分かった。この違いは、在日外国人教育や国際理解教育の取り組みは行われているものの、子どもに育てたい資質や能力、それを意図的・計画的に積み重ねていこうとする取り組みに違いがあるからではないかと考える。どの学校においても取り組める多文化共生の教育の内容と方法を開発する必要がある。

平成 10（1998）年に学習指導要領が告示されるにあたり、教育課程の基準の改善のねらいの一つに「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」<sup>1)</sup>が掲げられた。この答申では「国際化の進展に対応した教育は、広い視野をもって異文化を理解し、異なる文化や習慣をもった人々と偏見をも

たずに自然に交流し共に生きていくための資質や能力の育成を図ることをねらいとするものであるが、そのためには、我々はまず我が国の歴史や文化・伝統に対する誇りや愛情と理解と理解を培う教育が重要である」<sup>2)</sup>と指摘する。

国際化の進展に対応した教育は、社会科、地理歴史科、外国語科を中心に各教科、道徳、特別活動、「総合的な学習の時間」の学習の中で行うこととされている。そこで、これらの学習の中でどのようにねらいを実現するのが各学校の課題となるのではないかと考える。

このような課題意識に基づき、第 1 年次の研究では、「総合的な学習の時間」において多文化共生の教育を進めるための学習活動モデルを構想し、提示した。しかし、大阪市内各学校で多文化共生の教育を一層充実させるためには、教科等の学習においても多文化共生の教育を進めるための内容と方法を明らかにする必要があると考える。そこで、本年度は、教科等の学習の中でも特に社会科を取り上げて研究を行う。

## I 本年度の研究のねらいと方法

昨年度の研究では、多文化共生の教育のあり方を構想するにあたり、「総合的な学習の時間」を取り上げた。まず、多文化共生の教育の先行研究と文献、および在日韓国・朝鮮人教育と帰国・来日等の子どもの教育、国際理解教育で進められている大阪市内各学校の実践事例から現状と課題を把握した。そのうえで、多文化共生の教育を進めるための学習活動モデルを、小学校第 4 学年「日本 フィリピン 両方大好き」と第 6 学年「もっと知ろう！中国の友達のこと」の学習として提示した。

研究を通して次のことを明らかにした。

・外国籍の子どもの多数在籍校と少数在籍校では、「総合的な学習の時間」の具体的な内容・方法、実践された単元名、研究課題の着眼点が異なる。

・育てたい資質や能力を明らかにするため、観点ごとの単元目標と評価規準を作成したうえで評価活動を行うことは、学習活動が子どもの意識にどのような影響を及ぼすのかを捉えるうえで有効である。

・「総合的な学習の時間」において多文化共生の教育を構想し、実践を行うことにより、子どもの意識の変容は、授業中の「韓国」「朝鮮」「中国」という言葉、外国籍の友達が本名で通学すること、学校での民族や文化に関する学習等において現われる。

研究の成果を土台として、多文化共生の教育を一層充実させるためには、大阪市内各学校が教科等の学習においても取り組める、多文化共生の教育を進めるための内容と方法を開発することが大切ではないかと課題意識をもつに至った。

教科等の学習の中でも特に社会科は、社会生活についての理解、日本の国土と歴史に対する理解と愛情、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目標にしている。公民的資質とは、「民主的、平和的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力」<sup>3)</sup>である。自他の人格を互いに尊重し合うこと等の資質や能力は、多文化共生の教育で育てたい資質や能力にも関わるものである。社会科の内容を多文化共生の視点から見直しを図

り、実践の方向を明らかにすることは、アジアをはじめとする世界の国々への視野を広げ、異なる文化をもつ人々とともに生きようとする資質や能力を育むうえで、重要なことではないかと考える。

そこで、本研究では社会科の学習において多文化共生の教育を進めるための内容と方法を明らかにする。まず、多文化共生の視点からみた社会科の学習の考え方を明らかにし、授業設計のあり方を示す。そのうえで、小学校第5学年と第6学年において授業の検証を行い、その有効性を検証する。

具体的な研究の進め方は、次の通りである。

- ① 先行研究、文献等から、多文化共生の教育の内容を再考する。
- ② 社会科の内容を多文化共生の視点から見直しを図り、多文化共生の視点からみた社会科の授業の構想を明らかにする。
- ③ 検証授業を行い、その成果と改善点を明らかにする。

## II 多文化共生の視点からみた社会科の授業の構想

### 1 多文化共生の教育の捉え方

#### (1) バンクス、エクストランドによる提唱

多文化教育の研究や実践を発展させるうえで、第一人者として世界的なリーダーシップを発揮してきたのは、ワシントン大学の多文化教育センターの所長であるバンクス (James A. Banks) である。多文化教育は、1960から70年代のアメリカにおける公民権運動以降、新しい研究分野として台頭し、今や世界的にも広がってきている。多文化教育は、長い年月にわたって近代国家の中で生きてきた先住民族やエスニック集団、

さらには、マジョリティ集団（多数派、支配グループ）とマイノリティ集団（少数派、被抑圧・被支配グループ）における、文化の「支配－被支配構造」に対する民族活性化運動としても重要なものであった。また、多文化教育は、エスニック集団や人種集団の問題意識に対応する一つの手段としても発展してきた。

バンクスが提唱する「多文化教育」の目的とは、「あらゆる社会階級、人種、文化、ジェンダー集団出身の生徒たちが、平等な学習機会を持てるように学校や他の教育機関をつくり変えるための教育改革運動」であり、「すべての生徒がより民主的な価値観、信念、また文化を超えて機能するために必要な知識、スキル、態度を育てられるように支援すること」である<sup>4)</sup>。

江淵一公は、アメリカの多文化教育は、「①文化的同化主義と対立する文化的多元主義ないし多文化主義思想を基盤として、マイノリティ（少数民族）の子どもたちの自尊心を高め学力の向上をはかること、及び②マジョリティとマイノリティの相互理解を促進し、マジョリティによる偏見の払拭と社会の差別的構造の打破をはかることを目指す教育の思想・実践を意味する」<sup>5)</sup>と指摘しつつ、カナダとオーストラリア、イギリス等においても基本的な捉え方はほぼこれに近いという。

バンクスが、多文化教育を教育改革運動と捉えたのに対して、スウェーデンの多文化教育学者であるエクストランドは、国際交流・異文化接触の盛んな国際社会において、「国際的次元の教育問題を取り上げない多文化教育は狭すぎる」と主張し、「多文化教育とは、国民、言語、民族、あるいは人種の基準によって定義された、二つ以上の文化とかがかわる教育の過程もしくは方略」と指摘する<sup>6)</sup>。また、「多文化教育は、異

文化間の差異と類似性、文化と人々の世界観、観念、価値、信仰、態度との関係等についての感覚、寛容、理解及び知識の育成をめざす教育である。それは、異文化もしくは異文化集団の相互作用において必要な認知的技能、言語的・非言語的技能、及び異文化集団のメンバーとコミュニケーションを交わす技能等を育てることを意図している。また、異文化的状況に対応しうる学力の向上と社会的地位の成就を促進することを意図する。多文化教育の究極の目標は、異なる文化、国、集団、個人間のコミュニケーション及び相互理解の増進を成し遂げることにある」<sup>7)</sup>という。

## (2) 日本における提唱

日本においては特に広田康生らの研究と天野正治・村田翼夫らの研究をみておこう。広田康生らの研究<sup>8)</sup>は、先行事例をもとに多文化主義と多文化教育のための日本的モデルを提唱するものである。広田は、外国人児童生徒問題は、「1980年代半ば以降深刻化した、いわゆる『外国人就労者』問題が、就労場面から生活場面全体に拡大してくるなかで提起されてきた『異質な子どもたち』の教育及び生活問題」であり、「学校及び『地域』での諸実践をとおして、我が国社会が蓄積してきた共生、異質共存の『根』の部分の掘り起こす可能性」をもつという<sup>9)</sup>。

また、学校における多文化主義教育の実践は、「関わる我々の側の『異質共存』経験と呼び起こすこと、そして、こうした活動に『共振』する人びととの間のネットワークを地域のなかに掘り起こしている」といい、「『外国人児童生徒』の経験と呼応する『生き方』をしている人びとの作ってきた『共生』の歴史」は、「地域の『異質共存』のわが国社会なりの特徴を描き出

している」ともいう<sup>10)</sup>。

天野正治<sup>11)</sup>は、日本に加えて欧米諸国およびアジア・オセアニア諸国における多文化社会状況および民族教育、多文化教育、異文化間教育の歴史的発展と多文化共生教育の現状を分析し、新しい動向についても論及している。天野は、「『共生』への教育は、たんに文化的背景を異にするものの間においてのみならず、個人的背景を異にする同一文化に属するものの間においても、他者理解ならびに自己理解のためのきわめて有効な方法になり得る」という<sup>12)</sup>。

また、文化的多元社会において、「他者について知るとともに自己について知り、自己と他者の相互依存性に対する認識を深め、一つの世界における共通の課題と責任を自覚して共に手を携えて手取り組んでいく、そういう人間を形成することが、21世紀教育の課題」とも指摘する<sup>13)</sup>。

これらの研究にみる重要な指摘は、学校の外国人児童生徒の教育実践は、実践を通して関わる人々の側の共生、異質共存のあり方に示唆を与えているという点である。また、共生への教育は、文化的背景の異なる人々のみならず、個人的背景を異にする同一文化に属する人々においても、他者理解と自己理解のための有効な方法であるという点である。

### (3) 本研究における多文化共生の教育

本研究では、バンクス、エクストランドによる提唱、および日本における広田康生らの研究と天野正治・村田翼夫らの研究を基盤としているが、むしろ広田と天野の論に近いと思われる。それは、日本人の子どもと在日外国人の子どもがともに学ぶ教育の場を視野に入れて考えており、互いの人権を尊重し合い、文化的背景の異なる人々や同一文化に属する人々とともに生き、

自己と他者、自己と世界の国々とのつながりに気づかせる教育が必要であると考えからである。本研究における多文化共生の教育とは、次のような教育を意図する。

日本人の子どもと在日外国人の子どもがともに学び、ともに生きるため、互いの人権を尊重し、ちがいを豊かさとして認め合う子どもを育てる教育であり、在日外国人の子どもが、自らの国・民族への自覚と誇りを育むことのできる教育

この教育を具体化するうえで重要な着眼点となるのは、「人権意識の涵養」「多様な文化理解」「つながりへの気づき」であり、これら3つを「多文化共生の視点」と捉える。

## 2 多文化共生の視点からみた社会科の授業の考え方

小学校第5学年と第6学年の社会科の授業を展開するにあたり、多文化共生の視点からみた社会科の授業の考え方について述べておきたい。

### (1) 子どもの世界情勢に対する意識の把握

社会科の授業を展開するにあたり、今日的な世界情勢に関する子どもの意識を把握することは大切なことである。そこで、検証授業を行った第5学年と第6学年において子どもの意識調査を質問紙を用いて実施した。

表は、「外国の出来事で、あなたが強く感じたり心に残ったりしていることはどんなことですか」の設問に対する子どもの回答結果である。表1は小学校第5学年の子ども35人の回答結果であり、表2は小学校第6学年の子ども30人の回答結果である。ともに複数回答である。

表1 強く感じたり心に残ったり  
している外国の出来事（第5学年）

出来事	人数(人)
アメリカの同時多発テロ	18
イラク戦争	6
自爆テロ	3
日本人の拉致事件	3
世界には地雷が埋まっている国がある こと	1
イラクで起こっているテロ	1
戦争やテロがどうして起こってしまう のか	1
テロにより何人もなくなったこと	1
イスラエルとパレスチナの銃撃戦	1
アフガニスタンで小さい子どもが爆弾 などで手をなくしたりしている	1
ベルリンの壁の崩壊	1
牛肉の問題	1
アメリカのスポーツ	1
中国と日本がサッカーをしていて、日 本の選手に悪口を言ったこと	1
サッカーで1位のブラジルのこと	1

表2 強く感じたり心に残ったり  
している外国の出来事（第6学年）

出来事	人数(人)
アメリカの同時多発テロ	16
戦争のこと	6
イラク戦争	5
自爆テロ	2
拉致事件	2
爆弾で子どもが犠牲になっていること	1
イスラエルとパレスチナの銃撃戦	1
世界には地雷が埋まっている国がある こと	1
アフガニスタンで同じ位の年の子が生 活に困っていること	1
テロにより何人もなくなったこと	1
ベルリンの壁の崩壊	1
スポーツ	1

両学年の回答結果をみると、スポーツやサッカーのような国際親善、国際友好的な内容に関心をもつ子どももいるが、「アメリカの同時多発テロ」「イラク戦争」「自爆テロ」「拉致事件」等を挙げる子どもが多いようである。銃撃戦や爆弾、地雷について挙げる子どももいる。また

子どもが挙げている出来事をみると、ニュースや新聞等による報道に対する興味や関心も強いことが読み取れる。

実際、社会科の授業を展開する際には、このような世界情勢に対する子どもの意識に着目し、改善を図るための内容や方法を考えることが大切である。また、社会科の学習を通して世界の国々への視野を広げ、人権尊重の意識を涵養し、多様な文化をもつ人々とともに生き、自己と世界の国々とのつながりに気づかせることが大切だと考える。

## (2) 授業の考え方

多文化共生の視点である「人権意識の涵養」「多様な文化理解」「つながりへの気づき」からみた社会科の授業について、次のように考えるものである。

### 「人権意識の涵養」

文化の違いや違いへの理解がないために、差別や排除が起こることもある。社会科の学習は、国語科や道徳、「総合的な学習の時間」等と同様に、人権尊重を軸に学習を展開するのに適した教科であると考えられる。授業を展開するにあたり、自己の尊厳だけではなく他の人々の尊厳についても学び、国籍の如何を問わず、民族的・文化的背景の異なる人々が排除されることなく、互いに豊かな民族的アイデンティティが育まれ、尊重する態度を身につけることである。

### 「多様な文化理解」

アジア、南米等の様々な国々への視野を広げ、多様な文化を理解し、尊重する態度を育むことや、多様な文化をもつ人々とともに生きようとする態度を身につけることが大切である。また、多様な文化理解や日本と外国との関わりについての理解を深め、国際協力や国際友好について

実践的な行動力を育むことである。

「つながりへの気づき」

例えば、日本の食生活は国内だけではなく、アジアをはじめアメリカ合衆国、オーストラリア等の国々からの輸入により支えられている。また、日本は、労働力人口を維持するために多くの外国人労働者の受け入れを行わなければならない。今や世界的規模で人や物等の移動が活性化し、多国間の関係においてもボーダレス化が進行している。自己と他者、自己と世界の国々とのつながりを意識化させ、つながりに気づかせることである。

こうした3つの視点をふまえ、第5学年と第6学年の社会科の授業では次のことに留意していきたい。

第5学年の社会科の学習では「世界とつながる食料生産」を取り上げる。子どもは、農業と水産業の学習やふだんの生活経験から、自分たちが食べる食料の多くが外国からの輸入品であることは知っている。これまでの社会科の学習で身につけた知識や技能等を基に、子どもに、自分と外国とのつながりに気づかせるためには、日常生活の中での出来事や身の周りにある物、家族関係とのつながりから認識させることが有効であると考えられる。

そこで、国内だけでなく輸入されている食料が日本の食生活を支えていることを理解し、これからの食料生産のあり方について考えることを通して、自分と外国とのつながりについて考えるようにする。また、日本と食料生産国とのよりよい関係についても考えることができるようにする。

第6学年では「鎖国の中の日本と朝鮮」を取り上げる。子どもは、これまでの社会科の学習

で身につけた知識や技能等を基に、自分と外国とのつながりを認識する。その際、ニュースや新聞等の報道から得た情報も活用しようとする。

そこで、鎖国の時代の朝鮮通信使の学習では、日本と朝鮮との平和的・友好的な交流の足あとが今も祭りや人形等の形で日本各地に残されていることを理解し、街に残る朝鮮通信使の足あとや江戸時代の史跡について調べたり考えたりする学習を通して、自分と外国、日本と外国とのつながりについて考えるようにする。また、異なる文化や習慣をもつ人々を尊重することの大切さについても考えるようにしたい。

### 3 授業設計

#### (1) 「発展的な学習」の位置づけ

図1は、北による「基本の学習と発展的な学習の関連図」<sup>14)</sup>である。「発展的な学習」は、社会科の学習や「総合的な学習の時間」の学習としての取り組みが考えられる。

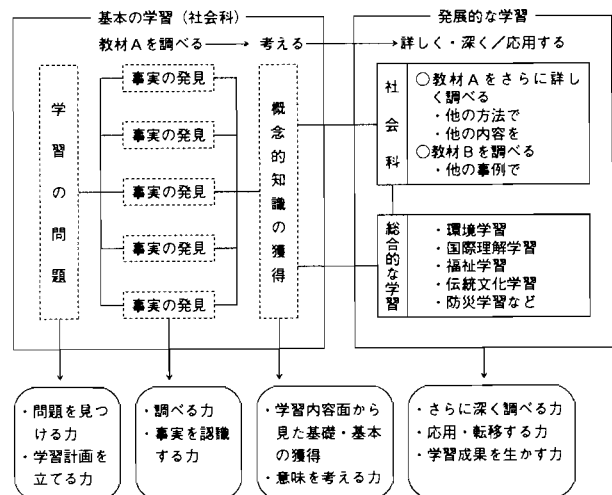


図1 基本の学習と発展的な学習の関連図

本研究では、第5学年の「世界とつながる食料生産」と第6学年の「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習において、自己とのつながりに気づいた



り、追究したりする学習を社会科の学習の「発展的な学習」として位置づけることにした。

そこで、「発展的な学習」の位置づけについての考え方を述べておきたい。

社会科の学習を通して身につける基礎的・基本的な内容とは、「将来にわたって社会生活を主体的、創造的に営むために必要な知識を理解し、社会に対する見方を育てること」であり、「子ども自らが問題意識をもって自ら獲得するもの」であり、「その後の学習や生活のなかで生かすようにすること」である<sup>15)</sup>。

平成15（2003）年12月、文部科学省は「小学校、中学校、高等学校等の学習指導要領の一部改正を行った。「学習指導要領の基準性をふまえた指導の一層の充実」の観点からの改正点は次の2点である<sup>16)</sup>。

①学習指導要領に示しているすべての児童に指導するものとする内容等を確実に指導した上で、児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能であるという学習指導要領の基準性を明確にする。

②内容の取り扱いのうち、内容の範囲や程度を明確にしたり、学習指導が網羅的・羅列的にならないようにするための事項は、すべての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校においては特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができることを明確にする。

今回の改正は、学習指導要領の基準性をより明確にしようとするものであり、今里 譲は、「指導要領の内容をすべての児童・生徒が身に付けられるように教員一人ひとりが十分な指導をすることであり、その上で、さらに付け加えて発展的な内容について指導を行うというのであれば、歯止め規定にかかわらず指導してもよ

いというのが今回の改正の趣旨<sup>17)</sup>であると解説する。

平成15年10月の中央審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」では、「補充的な学習」と「発展的な学習」を実施する際、それぞれのねらいを明らかにし、扱う内容と学習指導要領に示される各教科等の目標や内容との関係を明確にする必要があり、「補充的な学習」と「発展的な学習」について次のように指摘する。「『補充的な学習』を行う際には、様々な指導方法や指導体制の工夫・改善を進め、当該学年までに学習する内容の確実な定着を図ることが必要である。また、『発展的な学習』を行う際には、児童生徒の負担過重とならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げるという観点から適切に導入することが期待される<sup>18)</sup>。

すなわち、「補充的な学習」は、すべての子どもが基礎的・基本的な内容を確実に身につけるために行うものであり、「発展的な学習」は、子どもの特性や興味・関心に応じて子どもの学習を深化・発展させるために行うものであると考えられる。「発展的な学習」は、基礎的・基本的な内容の確実な定着が前提となり、行うことができるのは「学級での共通した学習問題のもとに、一定のまとめ（結論）が行われたあとに、つまり単元の基礎・基本の定着が確認された子ども<sup>19)</sup>」に対してである。

社会科の「発展的な学習」として取り扱う場合、学習指導要領の社会科の目標や内容が基礎的・基本的な内容であれば、「発展的な学習」は、基礎的・基本的な内容を生かした学習内容と考えられる。

なお、社会科の学習として「発展的な学習」を取り扱う場合、それにより生じる単元の授業

時間数の増加は、社会科の学習の時間内で配慮するものとする。

## (2) 基本的な問題解決の過程

多文化共生の視点からみた社会科の授業では、学習指導要領の基礎的・基本的な内容と「発展的な学習」の取り扱いをふまえ、単元レベルにおける問題解決の過程を4段階と考える<sup>20)</sup>。表3は、各段階におけるねらいと学習活動を表したものである。

表3 問題解決の過程

段階	段階でのねらい	段階での学習活動
つかむ	本単元の学習課題を明確に捉える。	既習内容や生活経験、資料をもとに社会的事象についての疑問等を話し合い、本単元の学習課題を見つけ、明確に捉える。
調べる	学習課題と関わる社会的事象のようすを詳しく調べ、予想したり表現したりする。	社会的事象のようすを観察したり、調べたり、予想したり、表現したりして社会的事象の中身を明らかにする。
考える	社会的事象の意味を考えたり、予想を検証したりする。	社会的事象のもつ理由や背景、因果関係等について考え、社会的意味を明らかにする。
ひらめる	学習したことへの定着や進化・発展を図ったり、学習したことと自己との関係を追究したりする。	これまでの学習を基に、新しい問題に気づいたり、自己との関わりを追究したりして、実践的な行動力を身につけるための動機づけを確かなものにする。

授業を展開する場合、問題解決の過程を重視し、見通しをもった学習が展開できるようにしたいと考える。なお、この問題解決の過程は1単位時間の学習においても用いるものとする。

## (3) 子どもの学習状況の評価

平成12(2000)年12月、教育課程審議会は「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在

り方について」答申を行った。答申では、「児童生徒の学習状況の評価の在り方としては、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現の状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を基本に据え、るとともに、児童生徒の自ら学び自ら考える力などの『生きる力』の育成の状況を総合的に評価する工夫をしていくことが必要である」と提言する<sup>21)</sup>。従来からも重視されてきた個人内評価については、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価することは、これまで通りである。評価の観点について、知識や技能の到達度にとどまらず、「自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力までも含めた学習の到達度を適切に評価」するうえで、「『関心・意欲・態度』『思考・判断』『技能・表現』『知識・理解』の4観点による評価を基本とすることが適当<sup>22)</sup>とする。

さらに、学習指導要領に示す目標に照らして、児童生徒の学習の到達度を客観的に評価するための評価規準については、「学習指導要領に示された各教科の内容ごとに、『関心・意欲・態度』『思考・判断』『技能・表現』『知識・理解』の4観点を原則とする指導要録における各観点に基づいて」設定する必要があると指摘する<sup>23)</sup>。

従って、本研究においても多文化共生の視点に関わる子どもの学習状況の評価する際にも目標に準拠した評価と同様に、4観点をを用いることとする。

社会科の授業では、世界の国々の多様な文化を理解し尊重する態度を育み、世界の国々が相互に依存し合い、自己の生活と深く関わり合っていることに気づかせたいと考え、単元目標を設定した。

また、単元レベルでの評価の4観点ごとの評価規準を作成するにあたっては、単元目標が観

点別学習状況の評価を行う場合の評価規準としても活用する。評価規準は、子どもの学習状況の評価するため、観点別に達成目標を示したものであり、学習では評価規準に照らし合わせ、子どもの学習状況を把握し、到達していないと思われる子どもへの学習支援を行うよう配慮した。

評価活動では、学習開始前と学習終了後にアンケート調査を実施し、学習の過程では社会科ノートや振り返りカード、学習プリント等を用いることにした。

### III 授業の実践

多文化共生の視点からみた社会科の授業の構想を基に、研究協力委員の協力を得て、学習計画を作成し実践を行った。実践は、大阪市立常盤小学校第5学年と大阪市立堀江小学校第6学年において行った。実施時期は、平成16（2004）年9月から11月である。

#### 1 小学校第5学年社会科「世界とつながる食料生産」の実践

##### (1) 「世界とつながる食料生産」と新聞作り

中単元「世界とつながる食料生産」を設定するにあたり、子どもの実態を次のように捉えた。

- ・農業と水産業の学習とふだんの生活経験から、自分たちの食生活を支えているものの中に、外国から輸入されているものがあることを知っている。
- ・バナナは給食のメニューに出てきたり、スーパーで比較的簡単に手に入ったりするので、子どもにはなじみの深い食料である。
- ・日本に輸出するバナナを生産するために、フィリピンの農園労働者たちがどのような状況におかれているかを考える子どもは、いないように思われる。

中単元「世界とつながる食料生産」は、次の

ような点において学習に適した教材だと考える。

- ・私たちが食べる食料の多くが外国から輸入されていることに気づき、それらが私たちの食生活を支えていることを理解することができる。
- ・フィリピンの農園労働者たちが、傷がなく形の良いバナナを作るために苦勞している現状を知り、食料輸入の問題と今後の食料生産のあり方について考えることができる。
- ・これからの自分にできることは何かを考えることを通して、自分自身を見つめる態度を養い、日本と食料生産国のよりよい関係について考えることができる。

学習を通して子どもに、食料の輸入や自給率のようす、国内だけでなく輸入された食料が自分の食生活を支えていることに気づかせたい。特に中単元「バナナをつくるために」の学習で取り上げるバナナは、日本人が食べている果物の中では第2位である。総務省家計調査「生鮮果物の年間一人当たり購入量」によれば、バナナは1.5週に1本食べている勘定になるという。果物基金の調査による購入理由の1位が「安い」で、2位が「食べやすい」である。また、バナナは年間を通じて計画的に収穫、出荷できることも人気順位を上げている。大手のバナナ会社では、毎週2回フィリピンからバナナを積んだ船が、川崎、神戸港等に入る。ベルトコンベヤーのように、1年52週休みなく続くという<sup>24)</sup>。

そこで、学習ノートや「今日の学習を終えて」の振り返りカードを使用し、学習したことと自己との関係を追及することを通して、自分と外国とのつながりに目を向け、日本と食料生産国のよりよい関係についても考えることができるようにする。「発展的な学習」では、自分にいちばんつながりが深いと思う国を選択し、新聞作りを行う。

**見つけよう、外国と自分**

5年 組 名前( )

今、自分に一番かわかりやすいと思う国はどこですか。

フィリピン

なぜそう思うのですか。

バナナを使うのに健康をもうけるから。  
バナナを褒め、きれいでいるから。

今、自分が一番興味のある国はどこですか。

中国 'アメリカ

その国に対し、どんな思いがありますか。

ひろく食べられるものがあるから、にぎやか。  
海がきれいなから。

その国のことをよく知るためには、どんな方法で調べることができますか。

パソコン(インターネット)資料集

↑

調べてみよう。

図2 学習ノート

## (2) 単元目標と評価規準

中単元「世界とつながる食料生産」の目標・内容は、次のような学習指導要領の、第5学年「2 内容」の(1)の部分の(ア)に該当するものであり、大単元「食料生産とわたしたちのくらし」の中の一つの中単元として設定したものである。

(1)我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。

イ我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

ウ食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き

単元目標は学習指導要領、多文化共生の視点

を考慮し、次のように設定した。

食料の輸入や自給率のようすについて意欲的に調べることを通して、国内だけでなく輸入された食料が国民の食生活を支えていることを理解するとともに、これからの食料生産のあり方について考えることができるようにする。

次に、評価規準は、「学習活動(=単元における学習活動)を通して子どもがどのような『関心・意欲・態度』をもち、そこで何をポイントに『思考・判断』し、その過程においてどのような『技能』を働かせどのように『表現』し、またどのような『知識・理解』を得ることを目指すかが統一的に明らかになるよう」に作成し、「すべての子どもがここまで学習実現して欲しい」というレベルにおいて作成することが大切である<sup>25)</sup>。そこで、次のように設定した。

### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

食料生産に関心をもち、外国から輸入している食料について進んで調べることができ、我が国の農水産業の発展や食料生産に関心をもちようとしている。

### 【社会的な思考・判断】

日本と生産国の食料生産の現状を知り、これからの食料生産のあり方を考えることができる。

### 【観察・資料活用の技能・表現】

地図の統計資料を活用し、食料の輸入や自給率の変化のようすについて調べることができる。

### 【社会的事象についての知識・理解】

食料生産と食料輸入のようすを調べることを通し、国内生産や輸入された物により国民の食生活が支えられていることを理解することができる。

(3) 学習計画の作成

全6時間で進める。表4は、第5学年「世界と

中単元「世界とつながる食料生産」の学習は、

つながる食料生産」の指導・評価計画である。

表4 第5学年「世界とつながる食料生産」の指導・評価計画(全6時間)

小単元名(時数)	子どもの意識の流れ	学習目標	評価の観点と評価規準	評価方法
輸入される食料 (1)	輸入されている食べ物が多いみたいだなあ。	○食料の輸入について調べ、我が国の食料輸入について興味や関心をもつことができるようにする。	【関心・意欲・態度】 食料の輸入について調べ、我が国の食料輸入について興味や関心をもとうとしている。 【知識・理解】 自分たちの生活を支えているものの中に、外国から輸入されているものがあることを理解できる。	・グラフ「魚の輸入量(魚種別)」(2002年水産貿易統計(水産庁)) 「牛肉の生産と輸入」(2002年食肉流通統計(農林水産省))の読み取り ・学習ノートへの記入内容 ・「今日の学習を終えて」の記入内容
	何が、どこから、どれくらい輸入されているのだろう。			
	どうしてこんなにたくさん輸入されているのだろう。			
	輸入食料品の一つであるバナナについて詳しく調べてみよう。			
バナナをつくるために (1)	バナナはどこから輸入されているのだろう。	○フィリピンのバナナ農園の労働者の現状について調べ、フィリピンの人々の思いについて考えるようにする。	【思考・判断】 フィリピンのバナナ農園の労働者の現状について調べ、フィリピンの人々の思いについて考えることができる。	・グラフ「バナナの輸入額と相手国」(2002年主要農林水産物の主要国・地域別輸入実績)の読み取り ・「バナナが日本にとどくまで」と「バナナ農園で働くお父さん」の読み取り ・学習ノートへの記入内容 ・「今日の学習を終えて」の記入内容
	フィリピンではどのようにしてバナナがつけられているのだろう。			
	フィリピンの人たちはどう思っているのだろう。			
	他の輸入食料品の生産国ではどうなっているのだろう。			
生産国の問題 (1)	他の輸入食料品について調べてみよう。	○他の生産国のおかれている現状を調べ、食料輸入の問題について考えるようにする。	【思考・判断】 他の生産国での現状を調べ、他の国々でもフィリピンと同じような状況におかれていることを知り、食料輸入の問題について考えることができる。	・「エビの輸入」と表「輸入食料の上位10品目と輸入総額の推移」の読み取り ・学習ノートへの記入内容 ・「今日の学習を終えて」の記入内容
	エビの輸入先である国々ではどんな問題が起きているのだろう。			
	どうしてこんな問題が起こるのだろう。			
	解決するにはどうすればいいのだろう。			
これからの食料生産 (1)	国内で生産している食料品は、どうなっているのだろう。	○食料輸入問題と自給率の変化のようすから、これからの食料生産のあり方と自分ができることについて考えるようにする。	【関心・意欲・態度】 食料輸入問題と自給率の変化に興味をもち、これからの食料生産のあり方とその問題点について考えようとしている。 【思考・判断】 これからの食料生産のあり方と自分ができることについて考えることができる。	・グラフ「おもな食料の自給率の移り変わり」(2000年刊食料需給表)の読み取り ・学習ノートへの記入内容 ・「今日の学習を終えて」の記入内容
	これからどうしていけばいいのだろう。			
	大切なことは何なのか考えてみよう。			
	これからの自分にどんなことができるだろう。			
見つけよう、外国と自分 (2)	自分とつながりが深い外国のことを詳しく調べよう。	○自分とつながりが深い国について調べ、自分の考えも新聞に書くことができるようにする。	【関心・意欲・態度】 自分とつながりが深い国について意欲的に調べようとしている。 【技能・表現】 調べたことを根拠を示しながら発表できる。	・「見つけよう、外国と自分」への記入内容 ・子どもの作った新聞の内容 ・事後アンケートへの記入内容
	調べたことをみんなに知らせる方法を考えてみよう。			
	調べたことをもとに新聞を作ろう。			
	自分や友達が調べたことを互いに発表し合おう。			

授業を展開する場合、問題解決の過程を取り入れて行い、授業では次のような点に留意したいと考える。

- ・比較的輸入に頼ることが多いバナナやエビ、牛肉等の品目や輸入先を地図帳や統計資料等を活用して調べるようにする。
- ・食料輸入と食料自給率のようすを調べ、国民の食生活が輸入に大きく依存していることに気づくようにする。
- ・バナナ農園で働く労働者たちのようすを調べることを通して、労働者たちの現状とその苦勞について自分なりの考えをもつことができるようにする。
- ・食料品の生産国の現状を調べることを通し、これからの食料生産のあり方と、自分ができることについて考えることができるようにする。

学習目標は、単元目標を支える基礎目標であり、ここでは学習過程ごとに設けている。

各学習過程における評価規準の実現状況の見取りには、グラフ（「魚の輸入量（魚種別）」「牛肉の生産と輸入」「おこな食料の自給率の移り変わり」等）の読み取りや資料（「バナナが日本にとどくまで」「バナナ農園で働くお父さん」

等）の読み取り、学習ノートや「今日の学習を終えて」の振り返りカード等を用いる。

子どもが見通しをもって学習ができるように振り返りカードでは、今日の学習で初めて知ったことや驚いたこと、そのための解決策を自分なりに考え、書けるようにした。また、もっと調べてみたいと思ったことも書く欄を設けた。

#### (4) 学習の実際

##### ① 問題解決の過程における学習

小単元「輸入される食料」の学習は、中単元の「つかむ」部分にあたり、学習課題を見つけ、これからの学習に興味や関心がもてるようにすることが大切である。そこで、「魚の輸入量」「牛肉の生産と輸入」のグラフを基に、日本に輸入されている食料が多いことや輸入量が多いことに疑問がもてるようにした。子どもは、食料の輸入量の多さや輸入額が増えていること、価格の安さ、エビが生きのまま輸入されていること等に疑問をもった。

次の「バナナをつくるために」の学習では、子どもは、フィリピンのおかれる状況とバナナを育てる人たちの健康問題と長時間労働、低賃金労働、農薬使用等に対して、困難な状況があるにもかかわらずバナナを生産することへの疑問を深めていった。バナナの生産に対して、「バナナ農園を田や畑にする」「農薬を使わずに育てる」「新しい技術で農薬を使わずにできるバナナづくりを目指す」「もっとバナナ農園で働く人を増やし、農薬に頼らず高く売れるバナナを作る方法を考える」等の解決策を子どもなりに考えていた。

そこで、バナナ以外の輸入食料品についても調べ、考えることができるように「生産国の問題」の学習を設定した。

図3 振り返りカード

これらの学習を通して、生産国の食料問題で驚いたことや初めて知ったことの記述に、生産国のおかれる状況と食料輸入の問題、環境破壊に関する記述がみられるようになった。

**【生産国のおかれる状況】**

- ・エビを育てることや困っていることがこんなにあるなんて初めて知った。
- ・インドネシアでは1日の給料が安いのでびっくりした。
- ・主に女性が働いていること。
- ・田に海水を入れると米ができなくなる。
- ・作っている国が水に苦しんでいること。
- ・エビはデリケートな生き物なので世話をしっかりしないと全滅してしまう。
- ・環境を破壊していてもエビを育てている。

**【食料輸入の問題】**

- ・生産国ではエビを1kg扱うと13円から17円位で、日本では1kg扱っても4000円位にもなる。
- ・エビの輸入額が40億ドルもかかっている。

**【環境破壊】**

- ・養殖池は水田を使っていることを初めて知った。
- ・マングローブが減ってきていること。
- ・エビの養殖のためにマングローブの林が大量に切られ、生産国では新たな環境問題になっていること。

この学習は、食料輸入の問題を考えるうえで効果的であった。食料問題を解決する方法として、「給料を上げる」「養殖場を作る」「塩などを入れずに育てる」「エビの輸入量を決める」「エビの輸入国が偏らないようにする」「マングローブを育てる」「マングローブの林を切らずに養殖する方法を考える」「協力し合う」等の

意見が出された。

次の「これからの食料生産」の学習は、「見つけよう、外国と自分」の学習へと発展させるための基本となる学習内容である。表5は「これからの食料生産」の授業展開である。まず、食料輸入問題と自給率の変化を表すグラフから、日本の主な食料の自給率が低下していることを読み取り、日本の食生活が輸入に大きく依存していることや、世界の食料が不足しているときに困ること、日本に輸出する食料品を生産するために環境が破壊されること等に気づくようにした。

次に、食料問題の解決策について日本と生産国両方の立場から考えるようにした。日本側と生産国側では、次のような意見が出された。

【日本側】	【生産国側】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・値段が高くても、もう少し国内でも食料を作る。</li> <li>・輸入を減らす。</li> <li>・輸入ばかりに頼らない。</li> <li>・日本の輸入量を減らし、生産物を増やす。</li> <li>・働く人を増やす。</li> <li>・日本の四季を生かして作り、輸出する。</li> <li>・一時輸入を禁止して、国内で大量生産をする。</li> <li>・環境を大切に作る。</li> <li>・外国との関係を大切にする。</li> <li>・外国人とも仲良くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産国は、環境を大切に輸出する。</li> <li>・もう少し環境を大切にしながら輸出する物を作る。</li> <li>・輸出してお金を増やす。</li> <li>・輸出する量を決めて生産を減らす。</li> <li>・農薬を使わないで生産できる方法を考える。</li> <li>・バイオフィームでエビの養殖をして、マングローブを増やす。</li> <li>・安全性と環境を考えて作る。</li> </ul>

表5 小単元「これからの食料生産」の授業展開

学習過程	○学習活動	・学習内容	○指導者の役割	・資料
つかむ		国内で生産している食料品は、どうなっているのだろう。		
	○食料自給率について話し合う。 ・自給率低下 ・低下に伴う問題点 ・食料輸入の問題点		○グラフから、主な食料の自給率が低下していることを読み取り、それに伴って起こる問題点に気づくようにする。 ○これまでの学習を振り返り、食料を輸入することの問題点を確かめるようにする。 ・グラフ「おもな食料の自給率の移り変わり」	
		これからどうしていけばいいのだろう。		
調べる	○食料問題の解決策を調べる。 (日本にとって) ・環境に優しい生産方法 ・後継者の育成 ・生産国への援助 (生産国にとって) ・食料安全性の向上 ・生産と輸出による収入の確保 ・他の産業への移行 ・環境の保護		○日本と生産国両方の立場に立って話し合うことができるように、解決策の根拠となる事実を調べる時間を保障するようにする。 ○グループで話し合うことで、互いの意見を聞き、より深め合うことができるようにする。	
		大切なことは何なのか考えてみよう。		
考える	○これからの食料生産のあり方を考える。 ・食料と食料生産の確保 ・環境保全 ・外国との相互援助と友好		○各グループでまとめたことを発表することを通し、日本・生産国両方にとってよりよい食料生産のあり方を考えるようにする。	
		これからの自分にどんなことができるだろう。		
ひろめる	○食料生産について自分の考えをまとめる。 ・これからの自分にできること		○自分の考えをまとめ、学習ノートに書くようにする。	

日本側では、輸入に頼らない、国内の生産量を高める、環境に配慮する等の発言があった。生産国側では、輸出量を決める、農薬使用をやめる、バイオファームでエビの養殖をして、マングローブを増やす等の発言があった。食料問題は、生産国の人々の生活を守ることが大切で

あり、日本と生産国の両方にとってよりよい生産が大切であることを指導した。

また、食料問題を自分の問題として捉えることができるようにするために、「これからの自分にできること」について考えるようにした。その結果、次のような記述内容がみられた。



自分にできること	人数(人)
食料を生産する。	7
お金を寄付する。	5
なるべく日本の物を食べる。	4
外国からどんな食べ物が輸入されているのか調べる。	3
輸入量を減らして国内で生産する。	3
輸入量を減らすために自分たちも働く。	2
環境を大切にす。	2
食料を国内で生産し、輸入を制限してくださいと頼む。	1
農薬より安全でおいしくできる薬品を作りたい。	1
輸出入の仕事についたとき、食料問題を解決できるかもしれない。	1
輸出できるような仕事について、日本と生産国に輸出したい。	1
海中に網を張り、エビを養殖する。	1
生産物を作ったりお金を寄付したりする。	1
お金を寄付してマングローブをつくる。	1
お金を寄付して環境問題をなくす。	1
あんまりできないと思うけどいろいろ	1

これらの記述内容を見ると、国内だけでなく輸入された食料が国民の食生活を支えていることを理解し、これからの食料生産のあり方について子どもなりに考えようとしていることが読み取れる。しかし、子どもの記述の中に、輸入量の制限に関する内容のものがあ、今後、第6学年の社会科の学習や中学校社会科の学習の中で、日本と世界の諸地域学習等を通して、日本の国土や社会生活を成り立たせている政治や経



【食料問題の解決策について話し合う】

済等に関する理解が深まっていくものと考え、

## ② 小単元「見つけよう、外国と自分」の学習

この学習では、これまでの学習内容をもとにしながら、自分とのつながりが深い国について調べたり、自分の考えも書いたりしながら自分と外国とのつながりに気づかせたいと考え、新聞作りを行うことにした。

学習ノートに、自分とのつながりが深いと考えられる国とその訳、その国のことを詳しく調べる方法等を書くようにした。子どもは、アメリカ、中国、韓国、フィリピン、サウジアラビア、オーストラリア等の国々を選択し、調べる方法として、インターネット、家族に聞く、本地図帳、テレビ等を挙げていた。図4は、子どもが作成した新聞である。

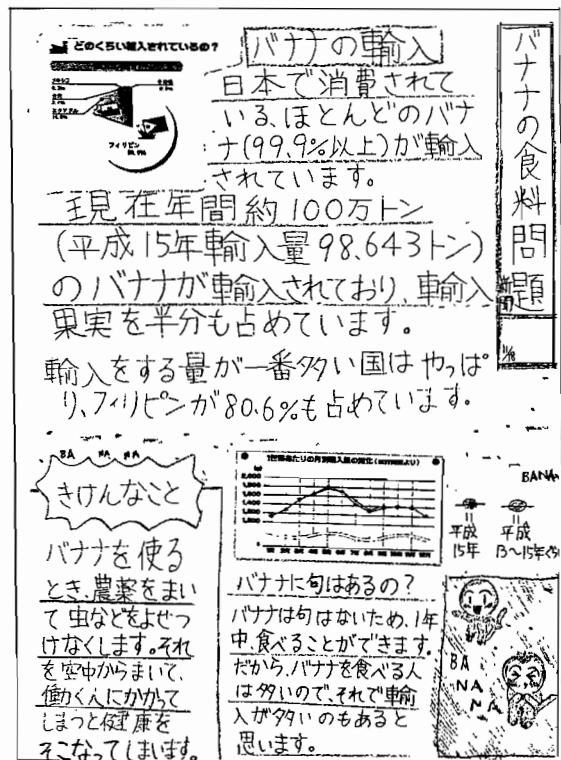


図4 新聞作り

## ③ M児への学習支援

食料問題を自分の問題として捉えるための、「これからの自分にできること」について「あ

んまりできないと思うけどいろいろ」と書いたのは、M児である。中単元「世界とつながる食料生産」の学習中、M児は、今日の学習は何について調べたり考えたりするのか、また、分かったことは何かを自分なりに学習ノートに記入していた。

「輸入される食料」の学習では、教科書や資料集、「魚の輸入量」「牛肉の生産と輸入」のグラフから、食料がどこの国から輸入されているのかを調べることができた。しかし、どうしてこんなにたくさん輸入されているのか、その訳がなかなか考えられなかったようである。友達の「日本の牛肉より外国の方が安い」「日本の生産量が減ってきた」「日本の人口が増えた」「日本は輸入の制限をゆるめた」等の発言を手がかりに、学習のまとめには、ねだんの安さや食生活の変化等によって輸入量が増えてきたことについて書いていた。

次の「バナナをつくるために」の学習では、バナナ農園や作業場のようすに驚き、バナナを育てている人たちに対して、「しっかり心をこめてつくっている」と書いていた。また、「生産国の問題」の学習でも、生産者の給料がとても安いことに驚いていた。振り返りカードには、「労働者やかんきょうをぎせいにしている」と書いていた。食料生産国のおかれている状況が理解できているものと考えられる。

そこで、外国と自分との関わりについて、もっと調べてみたいと思ったことはないかと聞くと、「いろいろなことを調べたい」と応えていた。M児は自分に一番関わりが深いと考えた国は、フィリピンである。その理由として挙げたのは、「お母さんがたまにバナナを買ってくるから」である。M児なりに自分とバナナの生産国とのつながりを考えているようである。

## 2 小学校第6学年社会科「鎖国の中の日本と朝鮮」の実践

(1) 「鎖国の中の日本と朝鮮」と「堀江の街」  
中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」を設定するにあたり、子どもの実態を次のように捉えた。

- ・日頃から海外のニュースに興味をもっている児童が多く、海外旅行の経験者もいる。また、学級には外国籍の子どもが在籍している。
- ・第5学年の「食料輸入」や「貿易」についての学習を通して、外国との相互理解の大切さについて理解はしているが、態度として身につくまでには至っていないようである。

このような子どもの実態に対し、中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」は、次のような点において学習に適した教材だと考える。

- ・朝鮮通信使は、日本が隣国である朝鮮と平和的・友好的な関係を持続した好例であり、今も祭りや人形等の形で日本各地に文化的な交流の足あとを残している。
- ・鎖国の時代にあって、国際理解を実践した先人である雨森芳洲の生き方や考え方について調べたり考えたりすることを通して、外国との信頼関係を大切にし、異なる文化や習慣を理解したり、尊重したりする態度を身につけることができる。

学習を通して子どもは、江戸幕府が朝鮮を「通信の国」として国を挙げて歓待したことや、朝鮮通信使が日本の各地の文化に大きな影響を与えたことに興味や関心を示すだろう。朝鮮通信使が往来した地域には、様々な交流の足あとが残されている。「堀江の街」の周辺にも、朝鮮通信使の足あとが随所に残されている。朝鮮通信

使一行の宿舎となった「西本願寺津村別院（北御堂）」、朝鮮通信使が渡るためにつけられた大阪市中央区の「高麗橋」、大阪市西区九条松島少年広場にある「朝鮮通信使の碑」、公園の西側にある「竹林寺」と金漢重の墓「韓人墳」等である。中でも「朝鮮通信使の碑」「竹林寺」「韓人墳」は、子どもの生活圏内にあるものである。特に、西区の竹林寺は子どもがふだんから通っている道に建てられた寺であり、九条松島少年広場は子どもが野球の練習をするのに使う場所である。

このような身近な史跡を「発展的な学習」で取り上げることとする。さらに、「堀江の街」の歴史的背景を述べると、「堀江の街」の史料には、川や新地、蔵屋敷、海運、材木市に関わる内容のものが多く見られ、江戸時代の史跡も多く残されている<sup>26)</sup>。

学校の近くにある和光寺は、元禄12年(1699)信濃善光寺にあった阿弥陀仏(伊豆の源延僧郡の作)を移し本尊とした浄土宗善光寺の別院である。土佐稲荷神社の辺りは、江戸時代、土佐藩主の大阪藩邸(蔵屋敷)である。また、木村兼葭堂とその邸宅跡がある。木村兼葭堂は、元文元年(1736)に生まれ、享保2年(1802)67歳で死去した。大阪町人学者といわれ、本草物産の学(博物学)に秀でていた。その邸宅跡の碑が、大阪中央図書館南詰めにあるが、実際は堀江川にかかる瓶橋の辺りである。

また大阪市西区は、幕末から明治以後、文化史上主要な役割を演じることになる。「幕府は慶応三年四月十三日、『兵庫港並大阪ニ於テ外国人居留地ヲ定ムル取極』を諸外国と結び、この取り決めによって正式に大阪における居留地の地域が決められた。大阪の居留地は、戎島(現西区川口)の北端元船番所のあった場所と定め

られ、それに隣接する地域を雑居地とした<sup>27)</sup>。川口付近は、大阪の文明開化の発信地として重要な地域となる。

## (2) 単元目標と評価規準

中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」は、中単元「身分制度と人びとの暮らし」の中の小単元の一つの中単元として設定したものである。この単元の目標・内容は、次のような学習指導要領の、第6学年「2 内容」の(1)の部分の(オ)に該当するものである。

(1)我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

オ江戸幕府の始まり、大名行列、鎖国、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したことや町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。

そこで、単元目標は学習指導要領、多文化共生の視点を考慮し、次のように設定した。

朝鮮通信使と雨森芳洲について意欲的に調べることを通して、江戸幕府が朝鮮を「通信の国」として国を挙げて歓待したことや、朝鮮通信使が日本の各地の文化に大きな影響を与えたことを理解するとともに、国と国の信頼の大切さを説いた雨森芳洲の「誠信」の外交精神について考えることができるようにする。

さらに、子どもがこの目標を実現するための

評価規準を作成した。次に、単元レベルでの評価規準を示す。

**【社会的事象への関心・意欲・態度】**

鎖国の時代における日本と外国との関係に関心をもち、朝鮮通信使と雨森芳洲について意欲的に調べることを通して、外国との信頼関係を大切に、異なる文化や習慣を理解したり尊重したりする態度を身につけようとしている。

**【社会的な思考・判断】**

雨森芳洲について調べることを通して、「欺かず、争わず、真実の心をもって交わる」という、芳洲が説いた「誠信」の外交精神の大切さについて考えることができる。

**【観察・資料活用の技能・表現】**

文書資料や年表、絵図等の資料を活用し、鎖国の時代における日本と朝鮮との交流や朝鮮通信使、雨森芳洲の外交姿勢について調べることができる。

**【社会的事象についての知識・理解】**

鎖国の時代にあつて、江戸幕府が朝鮮を「通信の国」として国を挙げて歓待したことや、朝鮮通信使が日本の各地の文化に影響を与えたことを理解することができる。

### (3) 中単元の構成

中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習は、全8時間で進める。19ページの表6は、第6学年「鎖国の中の日本と朝鮮」の指導・評価計画である。

この学習では、朝鮮通信使や雨森芳洲について意欲的に調べることを通して、江戸幕府が朝鮮を「通信の国」として国を挙げて歓待したことや、朝鮮通信使が日本の各地の文化に大きな影響を与えたことを理解するとともに、雨森芳

洲の「誠信」の外交精神について考え、「外交の基本＝誠信の交わり」の大切さについて自分なりの考えをもてるようにすることが重要である。

この学習が基本となり、次の小単元「わたしたちの街の朝鮮通信使」と「街に残る江戸時代の史跡」の学習につなげることができるからである。

中単元の学習では、次のような点に留意したいと考える。

- ・鎖国の時代に交流があった国について調べ、「通商の国」であったオランダや中国と異なり、朝鮮とは「通信の国」として平和で友好的な関係であったことに関心をもつことができるようにする。
- ・秀吉の朝鮮侵略で悪化した日朝関係が、平和で友好的な関係になっていった訳について調べたり考えたりすることができるようにする。
- ・雨森芳洲について調べ、国際理解の大切さに気づき、異なる文化や習慣をもつ人々を尊重することの大切さについて考えることができるようにする。
- ・自分たちの地域の歴史や先人の働きについて、理解と関心を深めることができるようにする。

### (4) 小単元ごとの授業展開の作成

20ページから22ページの表7は、中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」の授業を展開するために作成した小単元ごとの授業展開である。

すでに子どもは「総合的な学習の時間」に、日本と外国との交流年表（国のはじまりから江戸初期まで）を作成しており、中国や朝鮮との文化の交流は昔から行われていたことは理解している。中単元「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習では、文化的な交流を通して外国との信頼関係を大切に、異なる文化や習慣を理解したり

尊重したりする態度を身につけるためには、子どもが興味や関心を示すような授業を展開す  
「日本と外国との交流」に対する認識を深め、る必要があると考えた。

表6 第6学年「鎖国の中の日本と朝鮮」の指導・評価計画（全8時間）

小単元名(時数)	子どもの意識の流れ	学習目標	評価の観点と評価規準	評価方法
鎖国の時代の交流 (1)	鎖国をしていた江戸時代にも、外国との交流があったのか、調べてみよう。	○鎖国の時代にあっても、オランダ、中国、朝鮮等とは交流があったことを調べ、「通信の国」朝鮮について関心をもつことができるようにする。	【関心・意欲・態度】 鎖国中の日本と朝鮮との関係について関心をもとうとしている。 【思考・判断】 鎖国中の日本と朝鮮との関係について考えることができる。	・発言 ・調べ方 ・学習プリント 「鎖国の中の交流」の記入内容
朝鮮通信使の足あと (2)	朝鮮通信使について調べよう。 朝鮮通信使は何回くらい日本にやって来たのかな。 朝鮮通信使はどのようなコースを通ったのかな。 日本人たちは朝鮮通信使をどのように迎えたのだろうか。 朝鮮通信使が日本各地に残した足あとを探してみよう。	○朝鮮通信使について調べ、日本と朝鮮の国同士の関係だけでなく、朝鮮通信使を迎える沿道の人々が敬意をもって接し、交流を深めていたことを理解できるようにする。	【技能・表現】 朝鮮通信使との交流について調べることができる。 【知識・理解】 調べ学習を通して、当時の日朝の友好関係を理解することができる。	・発言 ・調べ方 ・学習プリント 「朝鮮通信使の足あと」の記入内容
朝鮮通信使と雨森芳洲 (2)	雨森芳洲の生き方や考え方について調べてみよう。 雨森芳洲の生き方や考え方を参考にし、外国と仲良くするために大切なことは何なのか考えてみよう。	○雨森芳洲の生き方や考え方について調べ、「外交の基本＝誠信の交わり」の大切さについて考えることができるようにする。	【思考・判断】 雨森芳洲の生き方や考え方を基に、外国の文化や風習を理解することの大切さについて考えることができる。 【技能・表現】 VTRや文書資料をもとに、雨森芳洲の生き方や考え方を調べることができる。	・発言 ・調べ方 ・学習プリント 「朝鮮通信使と雨森芳洲」の記入内容
わたしたちの街の朝鮮通信使 (1)	わたしたちの街に朝鮮通信使の足あとはないかな。	○地域に残る朝鮮通信使の足あとについて調べ、先人を手本として、異なる文化や習慣をもつ人々を大切にしようとする気持ちをもてるようにする。	【関心・意欲・態度】 異なる文化や習慣をもつ人々を尊重することの大切さについて、考えようとしている。	・発言 ・調べ方 ・学習プリント 「わたしたちの街の朝鮮通信使」の記入内容
街に残る江戸時代の史跡 (2)	わたしたちの街に残る江戸時代の史跡を探してみよう。	○街に残る史跡について調べ、街の江戸時代マップを作ることを通して、自分たちの地域の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。	【関心・意欲・態度】 街の歴史や先人の働きについて関心を深め、積極的に関わろうとしている。 【思考・判断】 街の江戸時代マップ作りを通して、街の歴史や先人の働きに気づくことができる。	・発言 ・調べ方 ・学習プリント 「江戸時代の堀江」の記入内容

表7 「鎖国の中の日本と朝鮮」の小単元ごとの授業展開

小単元	学習過程	○学習活動 ・学習内容	○指導者の役割 □期待する子どもの姿 ・資料
鎖国時代の交流	つかむ	○ 鎖国について、既習事項を思い出し、話し合う。 ・キリスト教の禁止 ・日本人が外国に行くことの禁止 ・貿易の制限	○ 鎖国についての既習事項を想起できるようにする。 ・図「踏み絵」 ・図「貿易の航路と日本人町」 ・教科書『小学社会6年上』大阪書籍、p.60
		鎖国の時代にも、外国との交流はあったのかな。	
	調べる	○ 鎖国の時代の外国との交流について調べる。 ・オランダ ・中国(清) ・朝鮮 など	○ どの国と、どのような交流をしていたのかを、1人1つは調べられるようにし、自分が調べたことを発表し合う。 ・教科書 pp.61-63 の資料
	考える	○ 鎖国の時代の外国との交流の目的について考える。 ・貿易の相手国 ・友好国 など	○ 「通商の国」と「通信の国」に分けてとらえることで、江戸幕府にとって朝鮮が友好国だったことをとらえられるようにする。  ・オランダや中国(清)とは、貿易をしていたのだな。 ・対等の立場ではない交流もあったのだな。 ・朝鮮とは、貿易以外の交流があったのだな。
	ひろめる	○ 朝鮮通信使について知りたいと思うことを話し合う。 ・通信使の規模 ・回数 など	○ 知りたいと思うことを出し合うことで、朝鮮通信使についての関心を高める。
朝鮮通信使の足あと	つかむ	○ 朝鮮通信使の絵を見て、分かることを話し合う。 ・たくさんの人 ・かごや馬に乗る人 など	○ 前時の「ひろめる」段階の話し合いや、絵から分かることを出し合い、調べる視点作りをする。 ・図「みつむらグラフィック・社会科-朝鮮通信使」1994
		朝鮮通信使の足あとをたどってみよう。	
	調べる	○ 朝鮮通信使について調べる。 ・国交の回復 ・回数 ・コース など	○ 各児童の調べたいことを大切に、意欲的に調べられるようにする。 ○ 各地に残る朝鮮通信使との交流のあとについてもとらえられるようにする。 ・辛基秀「江戸時代の日本と朝鮮」『にんげん 6年』明治図書、2002、pp.22-28 ・地図「朝鮮通信使の通った道」ほか
	考える	○ 江戸時代の日本と朝鮮との関係について考える。 ・熱心な歓迎 ・友好的な関係 ・文化の交流	○ 当時の日本人が友好的に朝鮮通信使を迎えていたことをとらえられるようにする。 ・図「朝鮮通信使小童図」 ・写真「唐子踊り」「唐人踊り」 ・写真「通信使の人形」ほか  ・江戸時代の人々は、朝鮮の人々を友好的に迎えたのだな。
	ひろめる	○ 秀吉の朝鮮侵略と比較して、江戸時代の日朝の関係のよさについて話し合う。 ・相手国を大切にす気持ち	○ 秀吉の朝鮮侵略と比べて、相手国を尊重することの大切さをとらえられるようにする。

朝鮮通信使と雨森芳洲	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮通信使の接待役</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の記述を読んで、雨森芳洲について関心を高められるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.62</li> <li>・肖像画「雨森芳洲」</li> </ul> </li> </ul>
	調べる	<p>雨森芳洲は、どのような生き方や考え方をした人物なのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲の生き方や考え方について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮の文化や風習の尊重</li> <li>・朝鮮語の学習</li> <li>・日朝の友好関係に尽力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ VTRや文書資料を使って、雨森芳洲の生き方や考え方について調べられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「江戸時代の国際人 雨森芳洲」愛知商事、創立15周年記念制作番組</li> <li>・文書資料「雨森芳洲」高月町教育委員会</li> </ul> </li> </ul>
	考える	<p>雨森芳洲の生き方や考え方のよいところは、どんなところだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲の生き方や考え方のよさについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を大切にすること</li> <li>・相手を理解する努力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲について調べたことの中から、一番大切だと思うことを1つあげ、そう思った理由を発表することで、「誠信の交わり」の大切さについて考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを大切に思う気持ちが大切なのだ。</li> <li>・相手のことを知るための努力を惜しまない人だったのだ。</li> <li>・わたしたちが、雨森芳洲を見習えることはないかな。</li> </ul> </li> </ul>
	ひろめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲を見習って、自分たちにもできることはないか、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達となかよくなるための努力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨森芳洲の生き方や考え方について、自分たちの生活に生かせることがないか考えることができるようにする。</li> </ul>
わたしたちの街の朝鮮通信使	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝鮮通信使が通った道について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮通信使の旅の道筋</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「朝鮮通信使の足あと」で学習した、朝鮮通信使の通った道筋を確認し、通信使の一行がわたしたちの街大阪にも立ち寄ったことを想起できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図「朝鮮通信使の日程略図」</li> </ul> </li> </ul>
	調べる	<p>わたしたちの街の、朝鮮通信使の足あとを探してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪の街に残る朝鮮通信使の足あとについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北御堂</li> <li>・高麗橋</li> <li>・竹林寺</li> <li>・韓人墳</li> <li>・朝鮮通信使の碑</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真資料を見せ、大阪に残る朝鮮通信使の足あとについて意欲的に調べられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真資料「北御堂」「高麗橋」「竹林寺」「韓人墳」「朝鮮通信使の碑」</li> </ul> </li> <li>○ 昔の大阪の人たちが、朝鮮通信使をどのようにもてなしたのかも調べるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・辛基秀「江戸時代の日本と朝鮮」『にんげん 6年』明治図書、2002、pp.22-28</li> </ul> </li> </ul>
	考える	<p>昔の大阪の人たちは、朝鮮通信使とどのように接したのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪の人々が朝鮮通信使をもてなした気持ちについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化の尊重</li> <li>・隣国の人への思いやり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 竹林寺で金漢重の看病をした大阪の人々の行動を通じて、隣人を大切にすること</li> <li>・病気になった金漢重を懸命に看病したのだ。</li> <li>・金漢重の気持ちを考えて、なぐさめたのだ。</li> </ul>
	ひろめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わたしたちの街に残る歴史について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・川や橋のあと</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 竹林寺のように、今も街に残る江戸時代の史跡について関心をもてるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市立堀江幼稚園、大阪市立堀江小学校『西六・堀江の街 子ども風土記』2003</li> <li>・大阪市立堀江小学校『百年のあゆみ』1973</li> </ul> </li> </ul>

街に残る江戸時代の史跡	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 竹林寺のように、今もわたしたちの街に残る江戸時代の史跡がないか、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の道標</li> <li>・川や堀を示す地名</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 街に残る江戸時代の史跡の写真を見ながら、ふだん見かけたり、知っていたりするものがないか話し合う。</li> <li>○ 写真に写る史跡が校区のどこにあるのかを明確にして、思い出しやすいようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図「校区地図」</li> <li>・写真「江戸時代の史跡」</li> </ul> </li> </ul>
	調べる	<p>わたしたちの街の「江戸時代マップ」を作ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 街に残る江戸時代の史跡や先人について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・勲進相撲興業の地の碑</li> <li>・伏屋素狄頭彰碑</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 街に残る江戸時代の史跡や先人について、1人1つ選んで調べられるようにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・『西六・堀江の街 子ども風土記』2003</li> <li>・『百年のあゆみ』1973</li> <li>・Webページ「大阪市立堀江小学校」</li> </ul> </li> <li>○ 調べたことをカードにまとめる。</li> </ul>
	考える	<p>「江戸時代マップ」から分かることを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人が調べたことを「江戸時代マップ」にまとめ、これまでの社会科で学習したこととの関連について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「天下の台所」とのつながり</li> <li>・文化・学問とのつながり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 堀江の街について調べたことを話し合い、それぞれの江戸時代の跡とこれまでの社会科で学習したことを関連づけられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「天下の台所」といわれた大阪のようすが、堀江の街にもみられたのだな。</li> <li>・江戸時代の文化や学問の跡も残っているな。</li> </ul> </li> </ul>
	ひろめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明治～昭和についても調べられないか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の移り変わり</li> <li>・戦争中の町や学校の様子</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回取り上げていないことで、堀江の街の歴史を示すものはないか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・『西六・堀江の街 子ども風土記』2003</li> <li>・『百年のあゆみ』1973</li> </ul> </li> </ul>

## (5) 学習の実際

### ① 問題解決の過程における学習

小単元「鎖国の時代の交流」の学習は、中単元の「つかむ」部分にあたり、江戸幕府にとって朝鮮が友好国だったことを捉え、朝鮮通信使についての興味や関心がもてるようにすることが大切である。

まず、子どもが学習課題をつかむことができるように、鎖国の時代に外国との交流はあったのかどうかの予想を立て、その予想を確かめる根拠として教科書の写真や記述等を用いた。「オランダと中国(清)、朝鮮とは貿易があった」「朝鮮とは友好関係」「アイヌ民族とは不公平な交換が行われていた」「琉球王国とは対等な関係ではない」等の意見を手がかりとして、どこ、どのような交流が、どんな目的で行われ

ていたのかを調べ、「学習プリント」にまとめた。子どもは、朝鮮との交流が他の国と違っていることに疑問をもったようである。

次の「朝鮮通信使の足あと」の学習では、朝鮮通信使に関する図や写真、通った道筋、各地に残る行事や人形等の視覚教材や文書資料を使用し、朝鮮通信使の行列、服装、歓待の仕方、食事、宿舎、歓迎の様子等が具体的にイメージできるように工夫した。

地図帳を見ていた子どもが、地図帳にも朝鮮通信使の足あとが載っていることを発見した。また、「馬が通れる道があったのか」「馬や駕籠は誰が準備したのか」「みんな朝鮮人なのか」「江戸を往復するのに何日かかったのか」等、さらに疑問をもったようである。そこで、鎖国の時代に江戸幕府や諸藩、当時の人々が朝鮮通



信使を盛大に歓迎したこと、朝鮮の王が変わると日本からも将軍の使節が釜山まで出かけたことを指導した。

子どもは、江戸時代の日本と朝鮮の関係について、次のような感想をもつことができた。

- ・思ったより、朝鮮通信使の影響が大きくてびっくりした。
- ・対等な関係の交流だ。
- ・秀吉の時代には仲が悪かったのに、仲がよくなったのがすごいと思った。
- ・朝鮮と日本はとても仲のいい国だったから、もっとその朝鮮と日本のことを詳しく知りたい。
- ・朝鮮通信使が約500人もいるなんてびっくりした。私は100人位かと思ったけれど、私の予想の5倍もいるとは思ってもよらなかった。
- ・朝鮮通信使との交流がとても大きな影響を日本に与えたと思った。朝鮮通信使がなぜなくなったのかを調べたかった。

図5は、「朝鮮通信使の足あと」の学習で用いた学習プリントである。

次に、外国との交流で大切なことは何かを考えることができるように、「朝鮮通信使と雨森

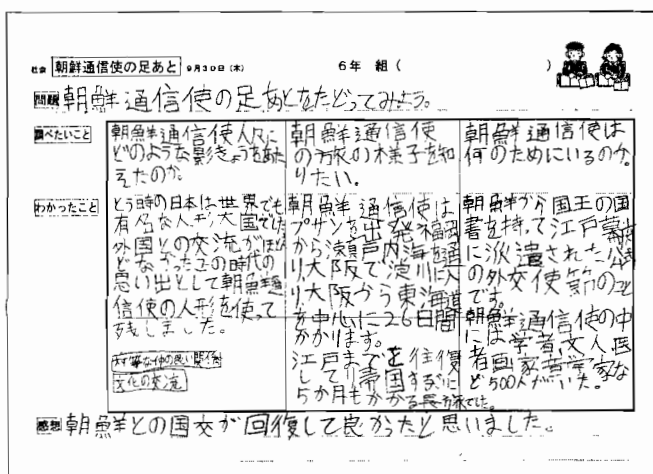


図5 学習プリント

芳洲」の学習を設定した。この学習では、雨森芳洲の生き方や考え方を探るために、教科書の他に、VTR「江戸時代の国際人 雨森芳洲」

(愛知商事、創立15周年記念制作番組)と文書資料「雨森芳洲」(高月町教育委員会)を活用することにした。

芳洲の生き方や考え方で子どもが興味や関心を示したのは、次のような点である。

- ・漢詩を学んでいた。
- ・医者志望から学者になった。
- ・木下順庵の弟子として有名。
- ・儒学を学んでいた。
- ・長崎で中国語を勉強した。
- ・朝鮮の文化や言葉を勉強した。
- ・朝鮮語を話す。
- ・朝鮮通信使の接待役を果たした。
- ・本(『交隣提醒』)等を出した。
- ・努力家で困難に負けない人。
- ・対馬の人々に敬われた。
- ・友好に努めた。
- ・相手の立場に立ってものを考える人。
- ・人の命の尊さが分かる人。

外国との交流では国同士の信頼が大切であることを子どもに気づかせるために、生き方や考え方の中で自分が一番大切だと思うことを1つ取り上げ、その理由について話し合うことにした。

子どもが大切だと考えたのは、相手の立場に立ってものを考えることや、人の命の尊さが分かること、目的をもち、最後までやり遂げることである。その理由として、「国同士の信頼が大切」「外国との付き合いでは相手の立場に立って考えることが大切」「友好に努めることが大切」等の意見が出され、「誠信の交わり」の大切さについて考えることができたのではないかと

考える。また、外国との交わり方についてその心得を説いた芳洲の偉大さにも触れ、外国との交流では、国同士の信頼が大切であることに気づくことができた。

② 小単元「わたしたちの街の朝鮮通信使」と「街に残る江戸時代の史跡」の学習

「わたしたちの街の朝鮮通信使」の学習では、街に残る朝鮮通信使の足あととして、「北御堂(中央区)」「高麗橋(中央区)」「竹林寺(西区)」「韓人墳(西区)」「朝鮮通信使の碑(西区)」の写真資料を提示した。「あっ、見たことある」「いつも通るもん」「朝鮮通信使と何か関係があるの」等の反応がすぐに返り、学習課題をつかませるうえでこれらの写真資料は効果的であったと考えられる。

これら「北御堂(中央区)」「高麗橋(中央区)」等と朝鮮通信使との関わりを調べ、学習プリントに記入していった。朝鮮通信使との関わりについては、「北御堂に人がいっぱい集まり、書を書いてもらっている」「朝鮮通信使が通るために高麗橋を作った」「病気になった金漢重を懸命に看病している」「歓迎しつつ優しく接している」「手厚いもてなしをしている」等の意見があり、異なる文化や習慣をもつ人々を尊重することの大切さについて考えようとしていることが分かる。

また、学習プリントの感想欄には、「こんな近くに朝鮮通信使の足あとがあると思わなかった」「いつも通っている道にあるのでまた見に行こうと思う」「近くなので母と行ってみようと思う」「近くで野球の練習をしていたのに気づけなかった」等の記述内容がみられ、子どもの生活圏内に残されている朝鮮通信使の足あとを取り上げたことが有効であったと考えられる。

感想欄の記述内容	人数(人)
こんな近くに朝鮮通信使の足あとがあると思わなかった。	6
私が住んでいるところでこんなものがあるなんてすごいと思った。今度、見たいと思った。	4
大阪にこんなに朝鮮通信使の足あとが残っているなんてすごいと思った。竹林寺に行ってみたい。	2
他にも朝鮮通信使の足あとがあるのか調べたい。近くでみたことがある足あとがあったからびっくりした。	1
日本と朝鮮との交流がとても深くなっていったことが分かった。	1
朝鮮は日本と交流関係になってよかったと思った。	1
高麗橋が通信使のために作られたなんてすごいなあと思った。私はこれらの中のもの一度も見たことがないので、一回みてみたいと思った。	1
高麗橋を通信使のために作ったなんてすごいなあと思った。私は竹林寺を見たことがあるような気がする。	1
朝鮮通信使は日本に歓迎されてどう思っただろうなあと思った。もっと朝鮮通信使を知りたい。	1
見たことがあるものもあった。	1
こんな身近な所にあつたなんて思わなかった。いつも通っている道にあるのでまた見に行こうと思う。	1
古くから伝わったものが今も残されているものを見てみたいと思った。一番驚いたのは、碑です。近くなので母と行ってみようと思う。	1
日本と朝鮮は今では仲が悪いけれど、江戸時代はとても仲のよい国だと分かって、朝鮮を見る眼が変わってきた。	1
日本は朝鮮通信使に対してとても親切だということが分かった。朝鮮通信使は大阪にも足あとを残したことが分かった。	1
どれも初めて知ったことでよかった。竹林寺などの三つは、つながりがあつたのでおもしろかった。記念碑などを建て、昔のことを伝えようとした人々は、朝鮮の人たちを大切にしていたと私は思う。	1
身近に朝鮮通信使の足あとがあつたんだなあと思った。みたことがあるものもある。	1
全部を初めて知った。近くで野球の練習をしていたのに気づけなかった。	1
学習したことがよく分かった。	1

今日の学習は楽しかった。またやりたい。	1
あんまりおもしろくなかった。竹林寺と朝鮮通信使の碑と韓人墳は見たことがあって、なんだろうこれと不思議に思っていたけれど、今日すべてが分かった。北御堂と高麗橋は今日始めて見て、なんなのかが分かった。	1

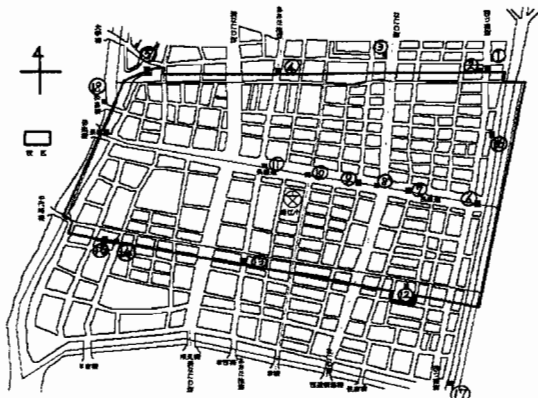


【街に残る朝鮮通信使の足あとを調べよう】

「街に残る江戸時代の史跡」の学習では、街に残る史跡について調べ、自分たちの地域の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めたい

むかしの川をたずねて

① 元阿古島橋付近の道路の起伏	② 立売堀川跡	③ 明治橋跡
④ 元穴塚橋付近の道路の起伏	⑤ 立売堀川と木津川の合流点	⑥ 四ツ橋横柱
⑦ 宇和島橋横柱	⑧ 西大橋横柱	⑨ 富田屋橋横柱
⑩ 問屋橋横柱	⑪ 白髪橋横柱	⑫ 堀江川跡
⑬ 元坂菜橋付近の道路の起伏	⑭ 元黒金橋付近の道路の起伏	⑮ 堀江川跡に一直線に並ぶ家並み
⑯ 新町橋記念碑	⑰ 西横堀川と道頓堀川の合流点	⑱ 松島橋跡



名所・旧跡をたずねて

① 旧電気科学館跡	② 新町九軒塚の跡	③ 初世中村蓮始郎生誕の地
④ 改良演劇発祥の地	⑤ 砂場跡の碑	⑥ 西六平和塔
⑦ 土佐藩白壁山検	⑧ 西六小学校敷上にあった供養塔	⑨ 西六小学校跡
⑩ 江戸時代の遺構	⑪ 四ツ橋にある句碑	⑫ 宇多卿の碑
⑬ 間長涯天文観測の地	⑭ 大阪木村市売市場発祥の地	⑮ 府立盲学校発祥の地
⑯-1 殿改者忠魂碑	⑯-2 あみだ池	⑯-3 伏魔斎改願影碑
⑰ 木村葉齋堂邸跡	⑱ 西長堀川と麗座の跡	⑲ 岩崎家旧邸址
⑳ 其角の句碑		○-0 藤井重田玉生堂跡
○-1 船渡相模興行の地	○-2 高台小学校跡	○-3 龍波神社御旅所

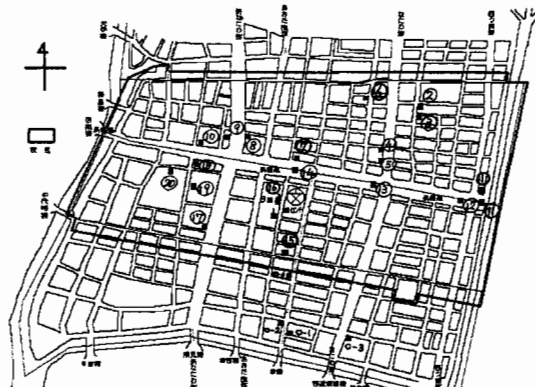


図6 子どもが選択した課題

と考えた。そこで、街の「江戸時代マップ」を作ることにした。

子どもが調べたい課題を選択し、調べ、考える活動ができるように各自で学習カードを作成した。課題は、校区内にある「江戸時代の道標」「川や堀を示す地名」「先人の石碑」等から選択することにした。図6は、子どもが選択した課題である。

調べ学習では、学校の記念誌である『百年のあゆみ』『西六・堀江の街 子ども風土記』等を基にしながらか意欲的に調べることができた。

みんなで仕上げた「江戸時代マップ」を見て、子どもは、街には江戸時代の史跡が多く残されていることに気づいた。「土佐の材木市場があった」「明治になって川口居留地が設けられたのを機に、渡しを廃止し、橋をかけた」「橋のたもとに材木問屋があった」「オランダ医学が入ってきた」「大名の蔵屋敷から橋の名前が付けられている」「町人文化が栄えていた」等の意見が出された。

みんなで街の「江戸時代マップ」を仕上げたことに満足感を味わい、自分たちの街には、朝鮮通信使の足あとや「天下の台所」といわれた大阪のようす、江戸時代の文化や学問の跡が多く残されていることに興味や関心を深めることができた。

### ③ 子どもへの学習支援

ここでは、H児とK児についてみておきたい。

「鎖国の時代の交流」の学習後、H児は鎖国の時代に日本はオランダ、中国、朝鮮とは交流があったことを理解することができた。しかし、もっと調べたいことに、「通信使について」を挙げており、朝鮮通信使の何について調べたいと思っているのかを書くことができなかった。

「朝鮮通信使と雨森芳洲」の学習では、VTRに興味を示し、VTRや文書資料を基にしながら芳洲の生き方や考え方について調べることができた。そこで、机間指導では、芳洲について調べたことの中から一番大切だと思うことや、その選んだ理由を考えるように助言を行った。H児は、外国との交流よりも芳洲の生き方や考え方に対して興味や関心をもち、「努力したところが偉い」と感想を書いていた。

「わたしたちの街の朝鮮通信使」の学習後の感想には、「あんまりおもしろくなかった」と書いていたが、感想の続きに、「竹林寺と朝鮮通信使の碑と韓人墳は見たことがあって、なんだろうこれと不思議に思っていたけれど、今日すべてが分かった。北御堂と高麗橋は今日はじめて見て、なんなのかが分かった」と書いていた。

「街に残る江戸時代の史跡」の調べ学習では、江戸時代に建立された和光寺について調べていた。

次に、K児である。K児の母親は韓国人であ

り、自分が韓国人であることを学級の友達にも明らかにしている。K児は、「鎖国の時代の交流」の学習では、鎖国中の日本と朝鮮との関係に興味を示したが、もっと調べたいことで挙げたのは、「朝鮮通信使はなぜ12回だけだったのか」である。

「朝鮮通信使の足あと」の学習では、日本が朝鮮通信使をどのようにもてなしたのかを調べ、鎖国の時代に日本と朝鮮が対等で仲のよい関係だったことが分かると、「朝鮮通信使を大切にしていたことが分かり、前の学習プリントに記入した調べたいことも分かってよかった」と書いている。芳洲に対しては、外国との交流よりも芳洲の生き方や考え方に興味をもち、「勉強は一生し続けるのは私はすごいことだと思います。私なら遠慮してしまうかも」と書き、芳洲と自分とを重ね合わせて考えているようである。

K児はこれまでの学習においても、日本と朝鮮との関係や交流に興味や関心を示していた。そんなK児が学習意欲を高め、学習に充実感を感じ始めるようになったのは、「わたしたちの街の朝鮮通信使」の学習のときからである。K児に、「北御堂」「高麗橋」「竹林寺」「韓人墳」「朝鮮通信使の碑」を見たことがあるのかと尋ねたところ、「ありません」と応えた。

そして、「竹林寺」「韓人墳」「朝鮮通信使の碑」が西区にあることが分かると、「どれも初めて知ったことでよかった。竹林寺などの三つは、つながりがあったのでおもしろかった。記念碑などを建て、昔のことを伝えようとした人々は、朝鮮の人たちを大切にしていたと私は思う」と感想を書いていた。「街に残る江戸時代の史跡」の調べ学習では、相撲の発祥の地について調べていた。

## IV 考察—子どもの意識とその変容

第5学年「世界とつながる食料生産」と第6学年「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習開始前と学習終了後に行ったアンケート調査を基に、子どもの意識とその変容を考察する。調査対象人数は、第5学年が開始前35人、終了後36人、第6学年が開始前30人、終了後29人である。

### 1 社会科の学習と生活との関連

#### (1) 学習への意欲

図7は、「あなたは、社会科の学習が楽しいと思いますか」の設問に対する第5学年の回答結果である。事前では「とてもそう思う」の回答者数が3名だったが、事後では4名と増加している。また、「そう思う」の回答者数も事前では10名だったが、事後では14名に増加している。

図8は、同様の質問に対する第6学年の回答結果である。「とてもそう思う」の回答者数は事前と事後では7名と同じ数であるが、「そう思う」の回答者数は事前では10名だったが、事後では16名に増加している。

両学年の子どもとも、社会科の学習に対して意欲が高まっているようである。世界情勢で子ども心に強く残っていることや子どもの実態把握に努め、子ども自らが問題意識をもって調べたり考えたりする学習を行ってきたことによる成果ではないかと考えられる。

#### (2) 生活に役立つ社会科の学習

図9は、「あなたは、社会科で学習していることが生活の中で役立つと思うことがありますか」の設問に対する第5学年の子どもの回答結果である。事前では「はい」の回答者数が23名で、事後では24名である。「世界とつながる食料生産」の学習では、事前、事後とも学習したこ

とが自分の生活に役立つと考える子どもは多いといえる。

図10は、同様の質問に対する第6学年の回答結果である。事前では「はい」の回答者数が13名で、事後では24名に増加している。朝鮮通信使が往来した地域や、街に残されている交流の足あとを教材化したことが肯定的な回答につながったものと考えられる。

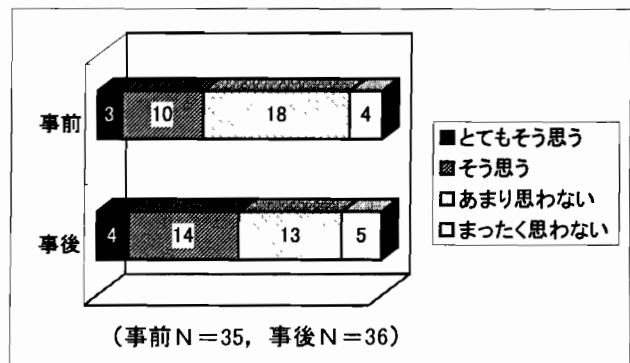


図7 学習への意欲 (第5学年)

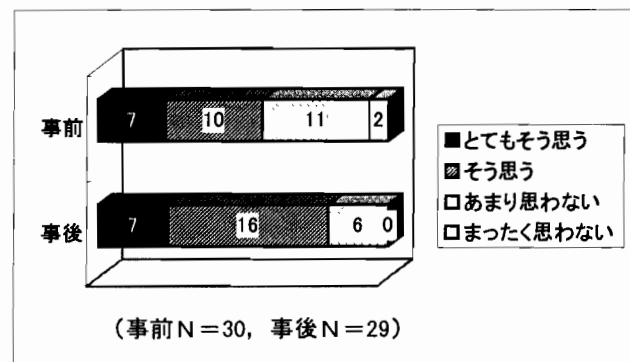


図8 学習への意欲 (第6学年)

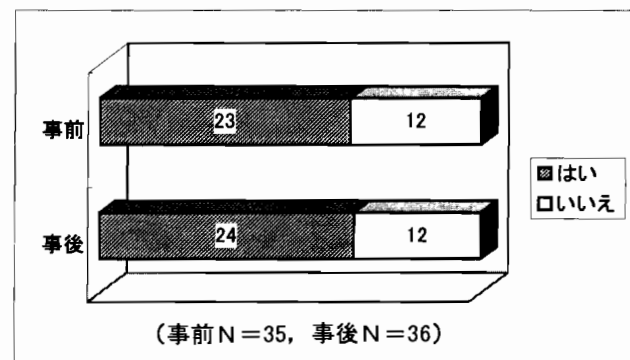


図9 生活に役立つ (第5学年)

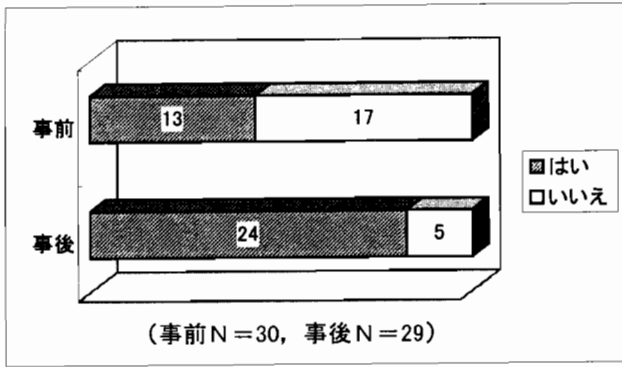


図10 生活に役立つ (第6学年)

## 2 つながりへの気づき

### (1) 第5学年は食料問題からみたつながり

図11は、「あなたは、毎日の生活の中で、どの国とどのようなつながりがあると感じていますか(複数回答)」の設問に対する子どもの回答結果である。事前では、つながりがあると子どもが考えた主な国は、中国が22人、韓国が19人、アメリカが12人、イタリアが11人、オーストラリアが7人である。その他、フランスが3名、ドイツ、インド、タイ、インドネシアがそれぞれ2名ずつで、イラク、イギリス、朝鮮、ブラジル、エクアドル、バングラディッシュがそれぞれ1名ずつである。

事後では、アメリカが32人、中国が23人、韓国が20人、フィリピンが11名、サウジアラビアが5人、オーストラリアが4人である。アメリカと回答した子どもが増えて、つながりがある

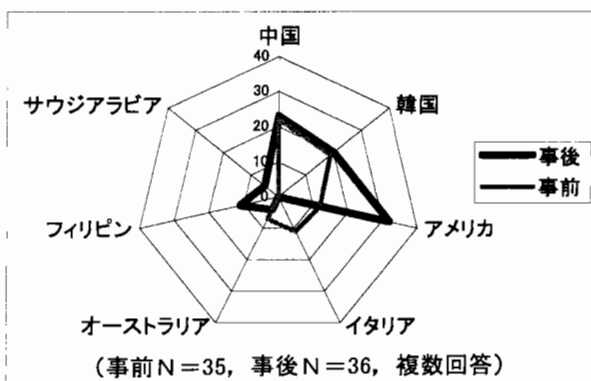


図11 つながりがある国 (第5学年)

国として新たにフィリピンやサウジアラビアが挙げられている。

また、表8は、つながりに対する子どもの意識をみたものである(複数回答)。子どもは、日常生活の中での出来事や身の周りにある物、家族関係からみたつながりを考えているようである。

表9は、つながりに対する意識の変容をみたものである(複数回答)。つながりがあると考えた理由に、アメリカでは食料品や牛肉の輸入、牛肉問題等を挙げており、フィリピンではバナナや食料品の輸入を挙げ、サウジアラビアでは石油の輸入を挙げている。子どもは、日常生活の中での出来事や身の周りにある物、家族関係からみたつながりだけでなく、社会科の中単元「世界とつながる食料生産」の学習での食料問題を生かして両国のつながりを考えていることが読み取れる。

表8 つながりに対する意識 (第5学年)

国名 (人数)	どのようなつながり ( ) は人数
中国 (22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中華料理を食べる(8)</li> <li>・中国製の服(5)</li> <li>・中国製の時計(1)</li> <li>・ぬいぐるみ(2)</li> <li>・おまけのおもちゃ(1)</li> <li>・文房具(1)</li> <li>・中国から言葉が伝わった(1)</li> <li>・パンダが来た(1)</li> <li>・道を歩いていると出会う(1)</li> <li>・祖母と祖父が中華料理屋(1)</li> </ul>
韓国 (19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キムチ(5)</li> <li>・焼肉(3)</li> <li>・韓国製の飾り(2)</li> <li>・韓国のドラマをしている(3)</li> <li>・旅行(1)</li> <li>・韓国の食べ物(1)</li> <li>・友達からもらったストラップをかばんに付けている(1)</li> <li>・友達がいて遊びに行ったらチヂミを焼いてくれる(1)</li> <li>・友達が韓国人(1)</li> <li>・通っている学童の先生が韓国人(1)</li> </ul>

アメリカ合衆国 (12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉(3)</li> <li>・牛丼の肉がアメリカで、今は食べられない(1)</li> <li>・アメリカからの食料(1)</li> <li>・ハンバーガー(1)</li> <li>・家の車(1)</li> <li>・グローブ(1)</li> <li>・道を歩いているとよく会う(1)</li> <li>・いところがある(1)</li> <li>・アメリカと仲よし(1)</li> <li>・朝鮮から守ってくれる(1)</li> </ul>
イタリア (11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパゲッティ (パスタ) (6)</li> <li>・ピザ(2)</li> <li>・ピザやパスタ(2)</li> <li>・家にあるワイン(1)</li> </ul>
オーストラリア (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉(1)</li> <li>・友達がいる(1)</li> <li>・お父さんの妹が住んでいる(1)</li> <li>・親戚が住んでいた(1)</li> <li>・カンガルーの服を持っている(1)</li> <li>・旅行(1)</li> <li>・熱帯魚を飼っていた(1)</li> </ul>

中国 (23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国製の衣服(1)</li> <li>・中華料理を食べる(4)</li> <li>・中国製のハンカチを持っている(2)</li> <li>・旅行(1)</li> <li>・今、中国ともめている(1)</li> <li>・中国の物が店に売っている(1)</li> <li>・ぬいぐるみ(1)</li> <li>・テレビでよく見る(1)</li> <li>・パンダ(1)</li> </ul>
韓国 (20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キムチ(6)</li> <li>・焼肉(4)</li> <li>・韓国の食べ物(4)</li> <li>・韓国の人が日本に増えている(1)</li> <li>・韓国に行ったり、人気のある人が日本に来たりしている(1)</li> <li>・父が主張で行っている(1)</li> <li>・旅行(1)</li> <li>・韓国人のファンがいる(1)</li> <li>・学童の先生が韓国で生まれた(1)</li> </ul>
フィリピン (11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バナナを輸入している(6)</li> <li>・バナナがすき(3)</li> <li>・バナナがおいしい(1)</li> <li>・日本にたくさん食料品を輸出している(1)</li> </ul>
サウジアラビア (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が石油を輸入している(5)</li> </ul>
オーストラリア (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母の姉が住んでいた(1)</li> <li>・お父さんの妹が住んでいる(1)</li> <li>・熱帯魚を飼っていた(1)</li> <li>・旅行(1)</li> </ul>

表9 つながりに対する意識の変容(第5学年)

国名 (人数)	どのようなつながり ( ) は人数
アメリカ合衆国 (32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料を輸入している(5)</li> <li>・牛肉をたくさん日本に輸出するから(4)</li> <li>・牛肉問題(3)</li> <li>・輸入と輸出の関係がある(3)</li> <li>・アメリカの野球をテレビで見た(2)</li> <li>・アメリカ産の牛肉をよく食べる(2)</li> <li>・ハンバーガー(2)</li> <li>・大統領と仲がいい(2)</li> <li>・旅行に行ったことがある(2)</li> <li>・ユニバーサル映画を見た(1)</li> <li>・服のロゴマークに英語が書かれている(1)</li> <li>・英語を教えてもらっている(1)</li> <li>・自分の持っているものがアメリカで作られた(1)</li> <li>・ポケットモンスターが流行っている(1)</li> <li>・母のいところがある(1)</li> <li>・いところや友達がいる(1)</li> </ul>

(2) 第6学年は習得した学びからみたつながり

図12は、「あなたは、毎日の生活の中で、どの国とどのようなつながりがあると感じていますか(複数回答)」の設問に対する子どもの回答結果である。事前では、つながりがあると子どもが考えた主な国は、アメリカが20人、朝鮮が17人、ロシアが11人、中国が9人、イラクが5人、サウジアラビアが3人、韓国が1人である。その他、イギリス、ドイツ、ギリシャ、オーストラリアがそれぞれ1名ずつである。

事後では、アメリカが26人、朝鮮が18人、ロシアが9人、中国が7人、イラクが4人、サウジアラビアが3人、韓国が5人である。回答者

数の増加数をみると、アメリカと朝鮮、韓国を挙げる子どもが若干ではあるが増えている。

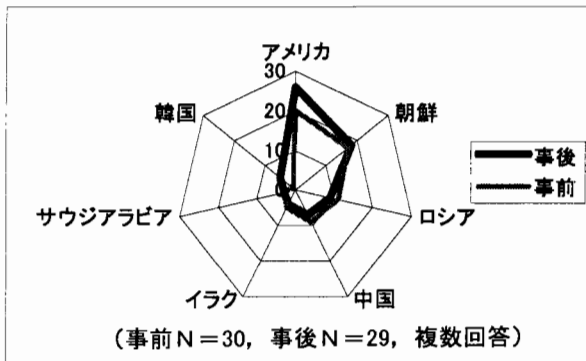


図 12 つながりがある国 (第6学年)

表10は、つながりに対する子どもの意識をみたものである(複数回答)。表11は、つながりに対する意識の変容をみたものである(複数回答)。つながりがあると考えた理由をみると、アメリカでは戦争や原爆、沖縄の軍事基地を挙げる子どもが減少し、貿易や貿易摩擦を挙げる子どもが増えている。朝鮮と回答する子どもは1人増え、核問題や食料問題を挙げている。韓国では食料品や貿易を挙げる子どもが増えている。

子どもは、ニュースや新聞等の報道に敏感に反応し、得た今日的な世界情勢に関する情報や、社会科の「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習で得た知識や技能等を生かし、つながりを考えていることが読み取れる。

表 10 つながりに対する意識 (第6学年)

国名 (人数)	どのようなつながり ( ) は人数
アメリカ合衆国 (20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入と輸出(5)</li> <li>・貿易(3)</li> <li>・日米安全保障条約(3)</li> <li>・原爆(2)</li> <li>・日本との戦争(1)</li> <li>・映画が日本でも有名だから(2)</li> <li>・日本の輸出相手国で輸出額がいちばん多い(1)</li> <li>・貿易摩擦(1)</li> <li>・沖縄の軍事基地の問題(1)</li> <li>・沖縄返還(1)</li> </ul>

朝鮮 (17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拉致問題(14)</li> <li>・戦争問題(2)</li> <li>・拉致被害者のこと(1)</li> </ul>
ロシア (11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土問題(11)</li> </ul>
中国 (9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中戦争(2)</li> <li>・昔日本は中国を真似ていた(1)</li> <li>・海域の問題(1)</li> <li>・貿易(1)</li> <li>・日本の輸出と輸入の相手国で輸入額がいちばん多い(1)</li> <li>・アジアカップ決勝のこと(1)</li> <li>・漢字を日本に伝えた(1)</li> <li>・漢字が使われている(1)</li> </ul>
イラク (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラク戦争(3)</li> <li>・自衛隊派遣(2)</li> </ul>
サウジアラビア (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油の輸入(3)</li> </ul>
韓国 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国ブームで韓国のドラマが放送されている(1)</li> </ul>

表11 つながりに対する意識の変容(第6学年)

国名 (人数)	どのようなつながり ( ) は人数
アメリカ合衆国 (26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易(7)</li> <li>・輸入と輸出(7)</li> <li>・貿易摩擦(3)</li> <li>・食べ物の輸入(3)</li> <li>・牛肉問題(1)</li> <li>・イラク戦争(1)</li> <li>・政治の関係(1)</li> <li>・第二次世界大戦で戦った(1)</li> <li>・映画, 服, 食べ物の輸入(1)</li> <li>・英語(1)</li> </ul>
朝鮮 (18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拉致問題(13)</li> <li>・核問題(4)</li> <li>・食料問題(1)</li> </ul>
ロシア (9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土問題(6)</li> <li>・テロ事件(1)</li> <li>・六カ国協議(1)</li> <li>・食料輸入(1)</li> </ul>
中国 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易(4)</li> <li>・漢字を日本に伝えた(2)</li> <li>・日中戦争(1)</li> </ul>
韓国 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キムチ(2)</li> <li>・韓国ブーム(2)</li> <li>・貿易(1)</li> </ul>
イラク (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラク戦争(3)</li> <li>・自衛隊派遣(1)</li> </ul>
サウジアラビア (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油の輸入(3)</li> </ul>



### 3 自己の変容への気づき

第5学年の子どもに、「世界とつながる食料生産」の学習を終えて自分が変わってきたと思うことについて尋ねた。その結果、食料問題、社会科の学習への興味や関心、学習内容を生活に生かすことの記述がみられた。

#### 【食料問題について】

- ・これまで日本の輸入量など知らなかったけど分かってきた。(2)
- ・日本は食料を輸入しないといけないことが分かった。(1)
- ・日本は輸入量が増えていることが分かった。(1)
- ・食べ物を生産している人の苦勞が分かった。(2)
- ・バナナがどれだけ苦勞してできているのかが分かった。(1)
- ・バナナを作って少ししかお金がもらえないなんておかしいと思う。(1)
- ・食料はいろんな所で生産されている。(2)
- ・世界の食料生産について知識がついた。(1)
- ・前まであまり食料生産を知らなくて意味もあまり分からなかったけど、勉強して意味が分かるようになり、よく調べたからその国のことも分かったと思う。(1)

#### 【社会科の学習への興味・関心について】

- ・社会科がおもしろくなってきた。(1)
- ・社会科が楽しくなってきた。(1)

#### 【学習内容を生活に生かすこと】

- ・食べ物を粗末にしないようにする。(7)
- ・食べ物を残してしまうけど、できるだけ食べる努力をする。(1)
- ・食べ物がどこから輸入されているのかを考えるようにする。(5)
- ・ニュースで輸入相手国のことを話していたら興味をもつ。(1)
- ・外国の人に対する気持ちを考えるようになった。(1)
- ・ニュースを見たとき、「〇〇では凶作で作物がとれません」などのニュースに興味が出てきた。(1)
- ・世界でいろんな食料問題があるということを知って、自分が変わってきたと思う。

また、第6学年の子どもにも、「鎖国の中の日本と朝鮮」の学習を終えて自分が変わってきたと思うことについて尋ねた。朝鮮通信使や社会科の学習への興味や関心についての記述の他に、第5学年と同じように学習内容を生活に生かすことの記述がみられた。

#### 【朝鮮通信使について】

- ・新たな知識が増えた。(4)
- ・貿易に対する考え方が変わった。(1)
- ・鎖国のときでも朝鮮とは交流をしていたことが分かった。(1)
- ・鎖国の時代の朝鮮のことが分かった。(1)
- ・朝鮮通信使のことを知って、昔から関わりがあるのだと分かってよかった。(2)
- ・先生の子どものときと比べると、今は朝鮮通信使を学習するから鎖国の時代の授業の進め方が、変わってきたと思う。(1)

#### 【社会科の学習への興味・関心】

- ・鎖国のときの農民の暮らしをもっと調べたい。(3)
- ・地理や歴史を覚えるようになった。(1)
- ・社会科の授業が前より楽しくなった。(2)

#### 【学習内容を生活に生かすこと】

- ・日本に近い国なのでもっと調べたいし、好感をもった。(1)
- ・朝鮮への考え方が変わった。(1)
- ・外国との関わりが少しずつ分かった。(1)
- ・世界の国々は大切なものだと思う。(1)
- ・外国には別に興味がなかったけれど、昔から外国といろいろな交流をしていたんだなあと興味ももてた。(1)
- ・昔は日本と朝鮮との間は交流があったけれど、今は拉致問題とかがあって昔とは変わってきていると思う。(2)

学習内容を生活に生かすことの記述をみると、「外国の人に対する気持ちを考えるようになった」「外国との関わりが少し分かった」等の記述がみられる。子どもは社会科の学習を通して、

学習で身につけた知識や技能等を基に、自分と外国とのつながりを意識化し、つながりに気づくことによってこれまでの外国に対する見方や考え方を見直し、よりよい関係を築こうとするのではないかと考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

本研究は、社会科の学習において多文化共生の教育を進めるための内容と方法を追究した研究である。まず、本研究を進めるにあたり、多文化共生の教育の捉え方を示し、多文化共生の視点からみた小学校社会科の授業の考え方を明らかにし、授業設計のあり方を示した。また、子どもの意識と変容を見取る評価活動を取り入れ、授業を行う必要があることも明らかにした。

具体的には、小学校第5学年では「世界とつながる食料生産」を、第6学年では「鎖国の中の日本と朝鮮」を授業実践し、その有効性を検証した。評価活動では、学習開始前と学習終了後にアンケート調査を実施し、学習の過程では社会科ノートや振り返りカード、学習プリント等を用いた。これらの評価活動は、本研究を進めるうえで有効に機能したと考えられる。

研究を通し、次のことを明らかにすることができたのではないかと考える。

- ・社会科の学習では、多文化共生の視点をふまえた授業を展開することによって、子どもは世界の国々への視野を広げ、自分と外国とのつながりに気づいたり、異なる文化や習慣をもつ人々を尊重することの大切さについて考えたりする。

- ・子どもは社会科の学習を通して、学習で身につけた知識や技能等を基に、自分と外国とのつながりを意識化し、自分とのつながりに気づく

ことによって外国に対する見方や考え方を見直すことができる。

今後も、多文化共生の視点である「人権意識の涵養」と「多様な文化理解」「つながりへの気づき」について、他学年での授業実践とその検証を行い、社会科の学習において多文化共生の教育を進めるための内容と方法に関する研究を深めていきたいと考える。

## おわりに

本市における在日韓国・朝鮮人教育と帰国・来日等の子どもの教育、国際理解教育において、育てたい資質や能力を明らかにすること、また、学習内容と方法等を開発することの重要性は認識され、実践も数多く行われている。

今日では、その実践は教科等の学習よりもむしろ「総合的な学習の時間」における国際理解教育や人権教育の中で行われることが多くなったように思う。本研究においても昨年度の研究は、「総合的な学習の時間」において学習活動モデルを構想し、提示したものである。

しかし、多文化共生の教育は「総合的な学習の時間」だけではなく、各教科等においても教科等がもつ目標と内容・方法を生かし、指導と評価の一体化を図り、学習活動を工夫することにより実践が可能ではないかと考える。

研究紀要執筆にあたり、研究協力委員の先生方には授業実践や多くの資料提供をいただいた。心よりお礼申しあげ次第である。また、研究顧問である赤塚康雄先生（天理大学）には多くのご指導を賜った。厚くお礼を申しあげる。

本研究紀要が本市の教育実践を進めるうえで少しでも役立つことができれば幸いであり、各学校での実践研究の推進に資する研究にしてい

きたいと考える。多方面にわたる方々のご指導  
とご批正をお願いする次第である。

**【研究協力委員】** 敬称略

向 康 宏 (大阪市立常盤小学校)  
後藤 陽子 (大阪市立堀江小学校)

**【注および引用文献】**

- 1) 文部省小学校課・幼稚園課編集『初等教育資料』No.691, 東洋館出版社, 平成10(1998)年, p. 83。
- 2) 文部省小学校課・幼稚園課編集, 前掲書1), p. 85。
- 3) 文部省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成11(1999)年, p. 13。
- 4) ジェームズ・A・バンクス著・平沢安政訳『多文化教育』サイマル出版会, 1996, p.21。
- 5) 江淵一公「多文化教育の概念と実践的展開—アメリカの場合を中心として—」『教育学研究』第61巻, 第3号, 1994, p. 224。
- 6) 江淵一公, 前掲書5), p. 225。
- 7) 江淵一公, 前掲書5), p. 225。
- 8) 駒井 洋監修, 広田康生編『多文化主義と多文化教育』明石書店, 1996。
- 9) 広田康生「総論—多文化化する学校・地域社会」, 駒井 洋監修, 広田康生編『多文化主義と多文化教育』明石書店, 1996, p. 17。
- 10) 広田康生, 前掲書9), pp.25-26。
- 11) 天野正治・村田翼夫編著『多文化共生社会の教育』玉川大学出版部, 2001。
- 12) 天野正治「序論 多文化社会における『共生』への教育」, 天野正治・村田翼夫編著『多文化共生社会の教育』玉川大学出版部, 2001, p.85。
- 13) 天野正治, 前掲書12), p. 85。
- 14) 北 俊夫「発展的な調べ学習の考え方と実践のヒント」北 俊夫編著『新社会科の発展教材&面白調べ活動内容—基礎・基本にプラスするプロの技—小学6年編』明治図書, 2003, p. 11。
- 15) 北 俊夫『社会科の基礎・基本—選択学習の新しい提言』明治図書, 2002, p. 24。
- 16) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東京書籍, 平成16年, pp.14-15。
- 17) 「小学校, 中学校, 高等学校等の学習指導要領の一部改正等について」に関する今里讓・文部科学省教育課程企画室長の解説。『日本教育新聞』資料版, p.2による。
- 18) 平成15年10月の中央審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」の第2章4「『個に応じた指導』の一層の充実」(2)当面の充実・改善方策②各学校における「個に応じた指導」を行う上での配慮等。
- 19) 北 俊夫, 前掲書15), p. 43。
- 20) 大阪市小学校教育研究会社会部『大阪市小学校社会科指導計画(第11次試案)』2001年, V-9の「問題解決の過程の4段階」を基本として加筆したものである。
- 21) 教育課程審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」平成12年12月, p. 8。
- 22) 教育課程審議会, 前掲書21), p.13。
- 23) 教育課程審議会, 前掲書21), p.32。
- 24) 朝日新聞「実りの秋に 日本人と果物」2004年10月23日(土)の記事による。
- 25) 国立教育政策研究所『ポートフォリオ評価を活用した指導の改善, 自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けた評価の工夫—生活, 国語, 社会, 算数・数学, 理科, 音楽, 体育,

技術，英語，特別活動を事例にして（第二次報告書）』平成16（2004）年，p.21。

- 26) 大阪市立堀江小学校『百年のあゆみ』昭和48（1973）年，大阪市立堀江幼稚園，大阪市立堀江小学校『西六・堀江の街 子ども風土記』平成15（2003）年。
- 27) 新修大阪市史編纂委員会『新修大阪市史 第5巻』大阪市，1991，p.43。

#### 【参考文献】

- 1) アジア保健研修財団「アジアの子ども」編集委員会『アジアの子ども』明石書店，2000。
- 2) 北 俊夫，安野 功編著『小学校社会科 基礎・基本と学習指導の実際－計画・実践・評価のポイント』東洋館出版社，2002。

---

---

研究紀要 第171号

---

平成17(2005)年3月31日 印刷

平成17(2005)年3月31日 発行

発行所 大阪市教育センター

552-0007 大阪市港区弁天1-1-6

電話 06 (6572) 0603

発行者 四 宮 良 三

---